

近鉄小倉駅周辺地区のまちづくりに関する
商業者アンケート調査結果報告書

令和3年3月
京都府立大学
京都地域未来創造センター

目 次

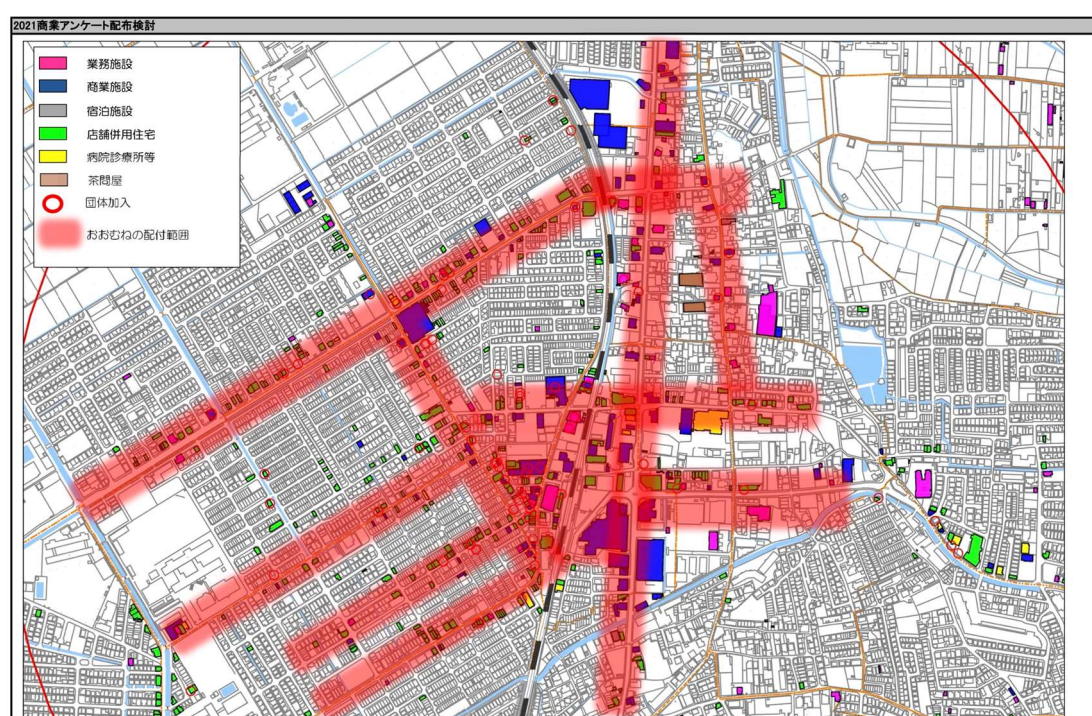
1 調査概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2 アンケート集計結果		
（1）各設問の集計結果	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
（2）クロス集計結果	・・・・・・・・・・・・・・・・	18

1 調査概要

「近鉄小倉駅周辺地区のまちづくり」について商業者の意見を調査するため、令和 3 年 1～2 月に同地区内の店舗・事業所に対してアンケート調査を実施した。

これらアンケートについて、各設問の回答の集計結果及び特徴のある事項のクロス集計結果を報告する。

●沿道配布範囲



●配布部数・周知数（重複あり）

商工会議所：80 部（会報に同封）	・・・	2/1 号
地域商店組合等	・・・	1/28
沿道配布：約 200 部	・・・	1/29、2/1

計：約 335 部（重複あり）

●回答数：65 回答

重複なしとして回答率：約 20%

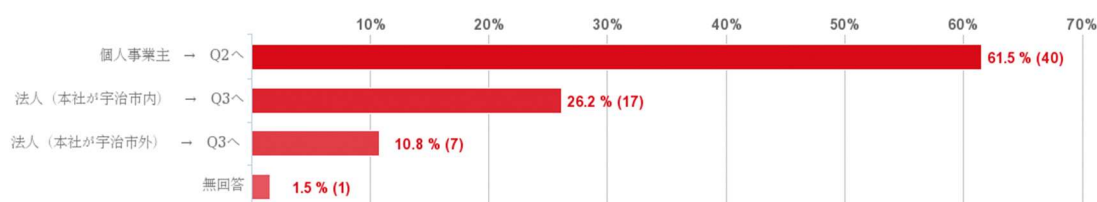
2 アンケート集計結果

(1) 各アンケート設問毎の集計結果

Q1. あなたの店舗等の経営形態は？（回答数: 65）

図2(1)1のとおり、全体の61.5%が「個人事業主」であり、「本社が宇治市内の法人事業所」の26.2%と併せて、約9割の店舗等が地元であることがわかった。

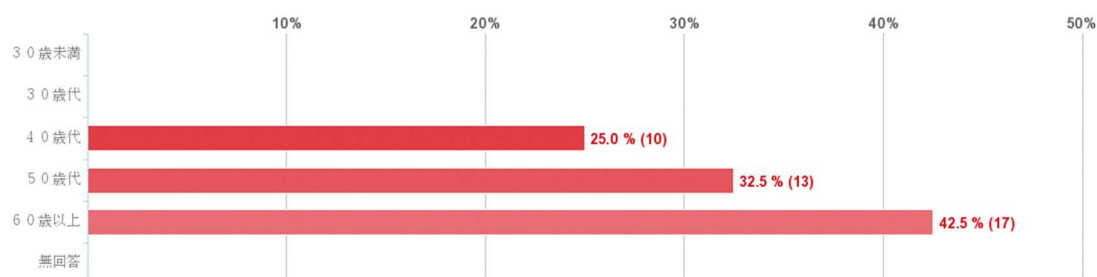
<図2(1)1>



Q2. あなた（個人事業主の方）の年齢は？（回答数: 40）

図2(1)2のとおり、Q1で個人事業主と回答したうち42.5%が「60歳以上」で、「30歳未満」「30歳代」がいないことがわかった。

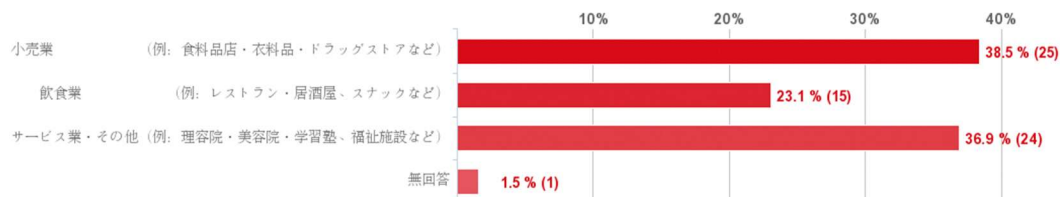
<図2(1)2>



Q3. あなたの店舗等の主な業種は？（分からない場合は近いと考えるもので可）（回答数: 65）

図2(1)3のとおり、「小売業」の38.5%が最多であり、次いで「サービス業」の36.9%、「飲食業」の23.1%という状況であることがわかった。

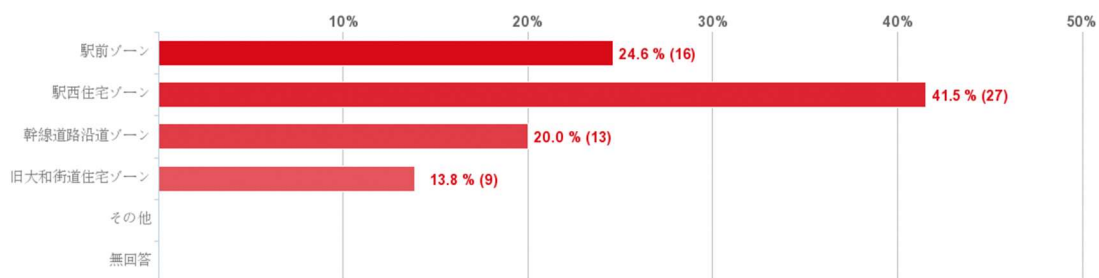
<図 2 (1) 3>



Q4.あなたの事業所・店舗はどのゾーンに立地していますか？(回答数: 65)

図 2 (1) 4 のとおり、「駅西住宅ゾーン」の 41.5%が最多であり、次いで「駅前ゾーン」の 24.6%、「幹線道路沿道ゾーン」の 20.0%、「旧大和街道住宅ゾーン」の 13.8%という状況であることがわかった。

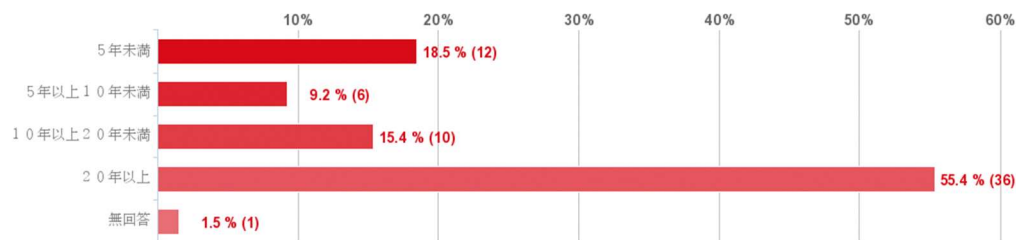
<図 2 (1) 4>



Q5.あなたの店舗等の営業年数は？(回答数: 65)

図 2 (1) 5 のとおり、「20 年以上」の 55.4%が最多であり、次いで「5 年未満」の 18.5%、「10 年以上 20 年未満」の 15.4%、「5 年以上 10 年未満」の 9.2%という状況であり、全体の半数以上の店舗等が長期間にわたって地域で営業されていることがわかった。

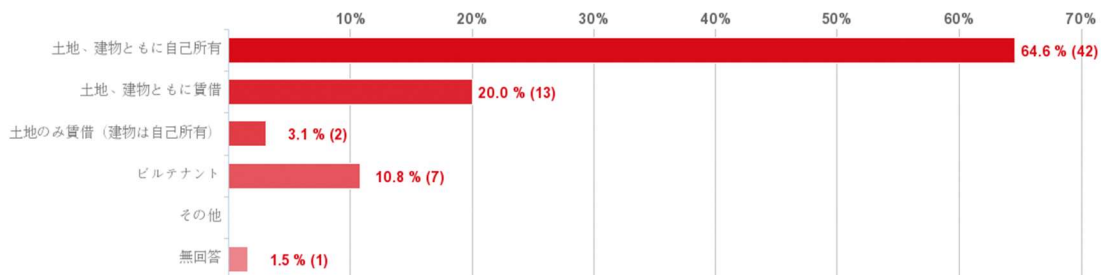
<図 2 (1) 5>



Q6.あなたの店舗等の保有形態は？ (回答数: 65)

図 2 (1) 6 のとおり、「土地・建物ともに自己所有」の 64.6%が最多であり、次いで「土地・建物ともに賃借」の 20.0%、「ビルテナント」の 10.8%、「土地のみ賃借（建物是自己所有）」の 3.1%という状況であることがわかった。

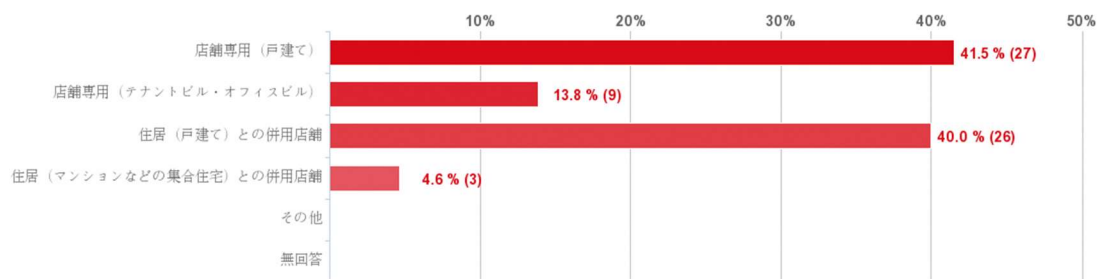
<図 2 (1) 6>



**Q7.あなたの店舗等は専用ですか、住居との併用ですか？
(回答数: 65)**

図 2 (1) 7 のとおり、「店舗専用（戸建て）」の 41.5%が最多であり、次いで「住居（戸建て）との併用店舗」の 40.0%、「店舗専用（テナントビル・オフィスビル）」の 13.8%、「住居（マンションなどの集合住宅）との併用店舗」の 4.6%という状況であることがわかった。

<図 2 (1) 7>

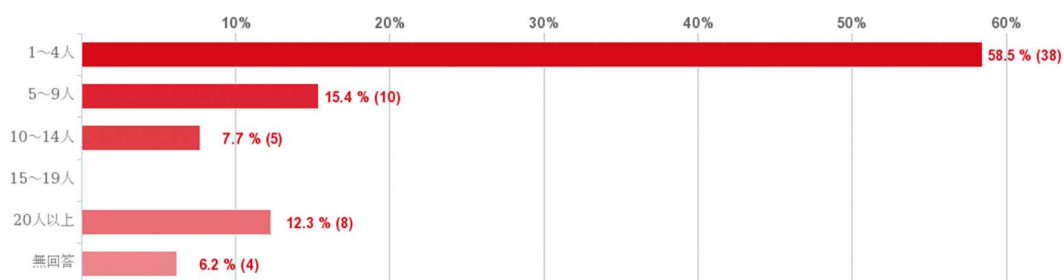


Q8.あなた（経営者）以外の店舗等の従業員数は？

※アルバイト等も含む（回答数: 65）

図 2 (1) 8 のとおり、「1～4 人」の 58.5%が最多であり、次いで「5～9 人」の 15.4%、「20 人以上」の 12.3%、「10～14 人」の 7.7%という状況であることがわかった。

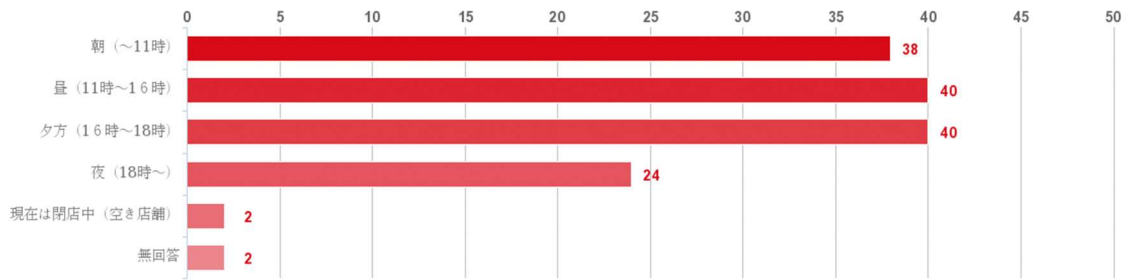
<図 2 (1) 8>



Q9.あなたの店舗等の営業時間は？(回答数: 65)

図 2 (1) 9 のとおり、「昼 (11 時～16 時)」「夕方 (16 時～18 時)」がそれぞれ 40 件で最多であり、次いで「朝 (～11 時)」の 38 件、「夜 (18 時～)」の 24 件という状況であることがわかった。

<図 2 (1) 9>

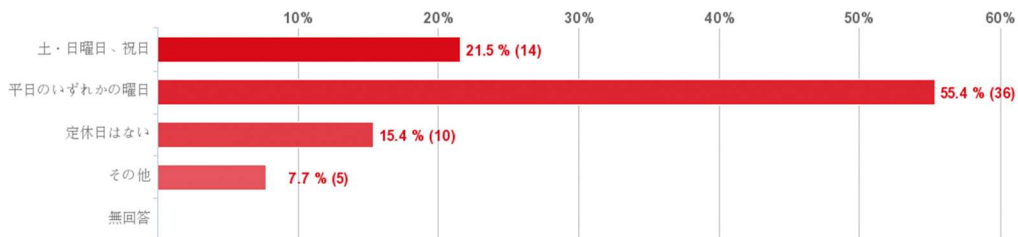


Q10.あなたの店舗等の定休日は？（年末年始やお盆等の期間を除く。）

(回答数: 65)

図 2 (1) 10 のとおり、「平日のいずれかの曜日」が 55.4%で最多であり、次いで「土・日曜日、祝日」の 21.5%、「定休日はない」の 15.4%、「その他」の 7.7%という状況であることがわかった。

<図 2 (1) 10>

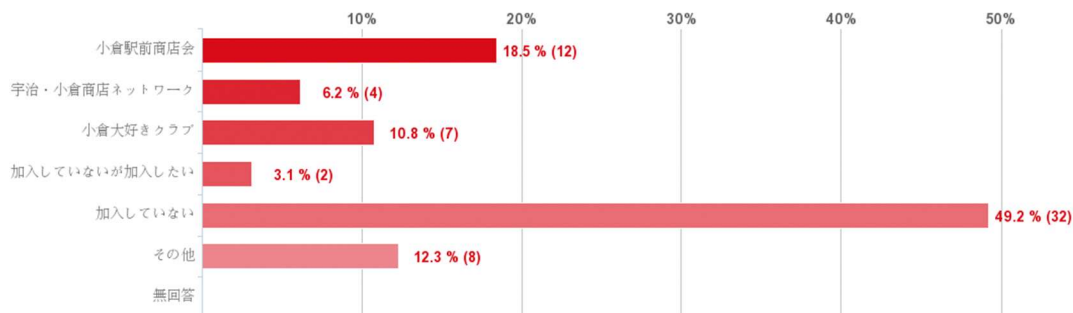


Q11.あなたの事業所・店舗は商業団体等へ加入していますか？

(回答数: 65)

図 2 (1) 11 のとおり、「加入していない」が 49.2%で最多であり、次いで「小倉駅前商店会」の 18.5%、「その他」の 12.3%、「小倉大好きクラブ」の 10.8%、「宇治・小倉商店ネットワーク」の 6.2%、「加入していないが加入したい」の 3.1%という状況であることがわかった。

<図 2 (1) 11>

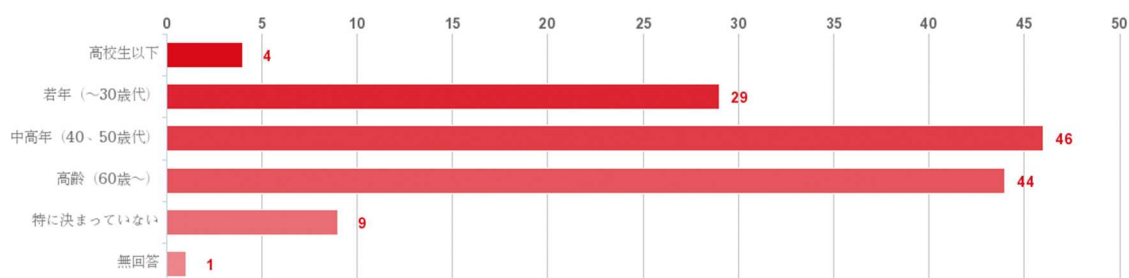


Q12.あなたの店舗等の顧客の主な年齢層は？（3つまで選択可）

(回答数: 65)

図 2 (1) 12 のとおり、「中高年（40-50 歳代）」が 46 件で最多であり、次いで「高齢（60 歳～）」の 44 件、「若年（～30 歳代）」の 29 件、「特に決まっていない」の 9 件、「高校生以下」の 4 件という状況であることがわかった。

<図 2 (1) 12>

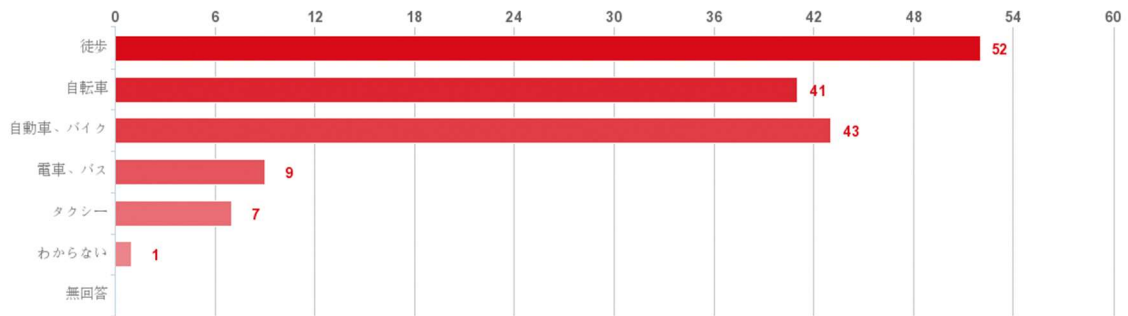


Q13.あなたの店舗等の顧客の主な来店手段は？（3つまで選択可）

(回答数: 65)

図 2 (1) 13 のとおり、「徒歩」が 52 件で最多であり、次いで「自動車・バイク」の 43 件、「自転車」の 41 件、「電車・バス」の 9 件、「タクシー」の 7 件という状況であることがわかった。

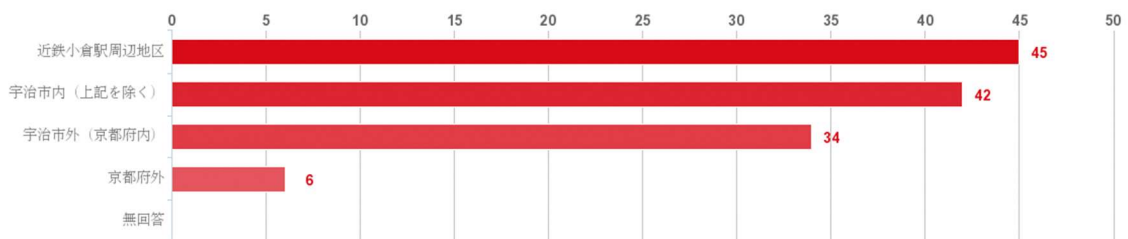
<図 2 (1) 13>



Q14.あなたの店舗等の顧客は、主にどこから来られている方が多い印象ですか？（3つまで選択可）（回答数: 65）

図 2 (1) 14 のとおり、「近鉄小倉駅周辺地区」が 45 件で最多であり、次いで「宇治市内（上記を除く）」の 42 件、「宇治市外（京都府内）」の 34 件、「京都府外」の 6 件という状況であることがわかった。

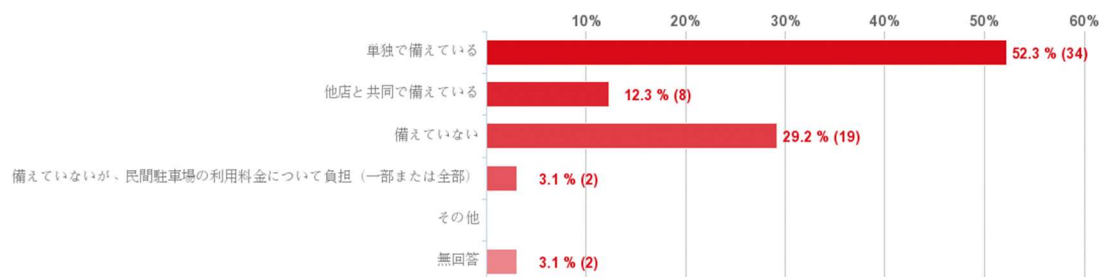
<図 2 (1) 14>



Q15.あなたの店舗等は駐車場を備えていますか？（回答数: 65）

図 2 (1) 15 のとおり、「単独で備えている」が 52.3%で最多であり、次いで「備えていない」の 29.2%、「他店と共同で備えている」の 12.3%、「備えていないが民間駐車場の利用料金について負担（一部または全部）」の 3.1%という状況であることがわかった。

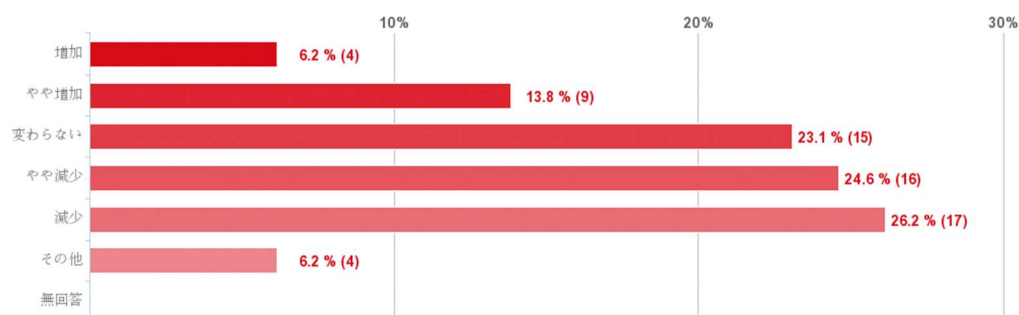
<図 2 (1) 15>



Q16.あなたの店舗等のここ数年の業況は？（コロナ禍の影響発生以前の業況）
（回答数: 65）

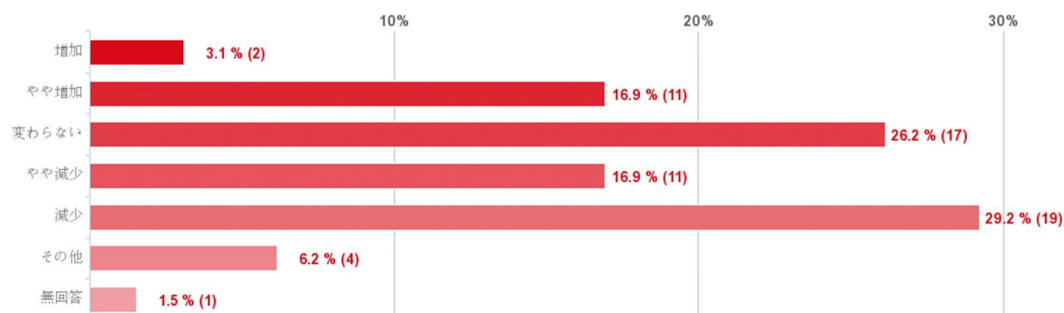
- コロナ禍の影響発生以前の業況に係る「売上」については、図 2 (1) 16-1 のとおり、「減少」が 26.2%で最多であり、次いで「やや減少」の 24.6%、「変わらない」の 23.1%、「やや増加」の 13.8%、「増加」の 6.2%という状況であることがわかった。

<図 2 (1) 16-1 「売上」>



- コロナ禍の影響発生以前の業況に係る「客数」については、図 2 (1) 16-2 のとおり、「減少」が 29.2%で最多であり、次いで「変わらない」の 26.2%、「やや減少」「やや増加」のそれぞれ 16.9%、「その他」の 6.2%、「増加」の 3.1%という状況であることがわかった。

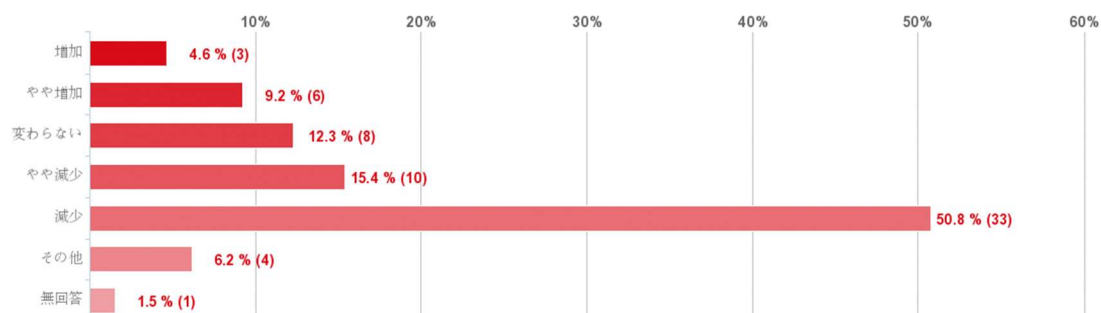
<図 2 (1) 16-2「客数」>



Q17.あなたの店舗等のここ数年の業況は？（コロナ禍の影響発生以後の業況）
（回答数: 65）

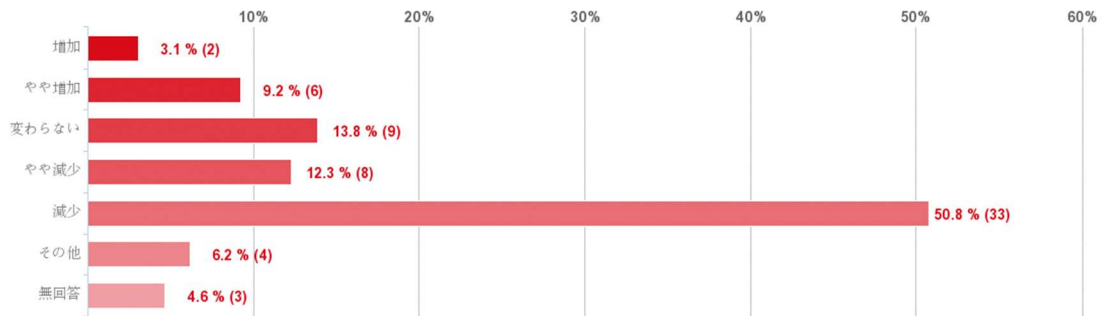
- コロナ禍の影響発生以後の業況に係る「売上」については、図 2 (1) 17-1 のとおり、「減少」が 50.8%で最多であり、次いで「やや減少」の 15.4%、「変わらない」の 12.3%、「やや増加」の 9.2%、「その他」の 6.2%、「増加」の 4.6%という状況であることがわかった。

<図 2 (1) 17-1「売上」>



- コロナ禍の影響発生以後の業況に係る「客数」については、図 2 (1) 17-2 のとおり、「減少」が 50.8%で最多であり、次いで「変わらない」の 13.8%、「やや減少」の 12.3%、「やや増加」の 9.2%、「その他」の 6.2%、「増加」の 3.1%という状況であることがわかった。

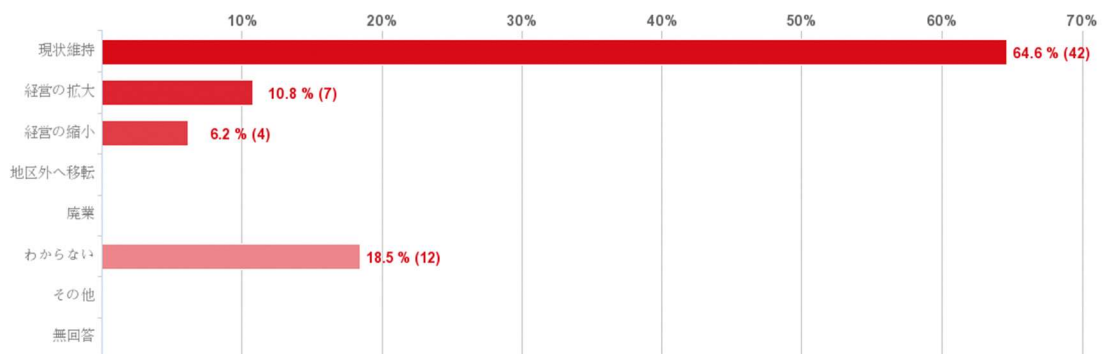
<図 2 (1) 17-2「客数」>



Q18.今後も小倉地区で事業を継続されますか。(回答数: 65)

図 2 (1) 18 のとおり、「現状維持」が 64.6%で最多であり、次いで「わからない」の 18.5%、「経営の拡大」の 10.8%、「経営の縮小」の 6.2%という状況であることがわかった。

<図 2 (1) 18>



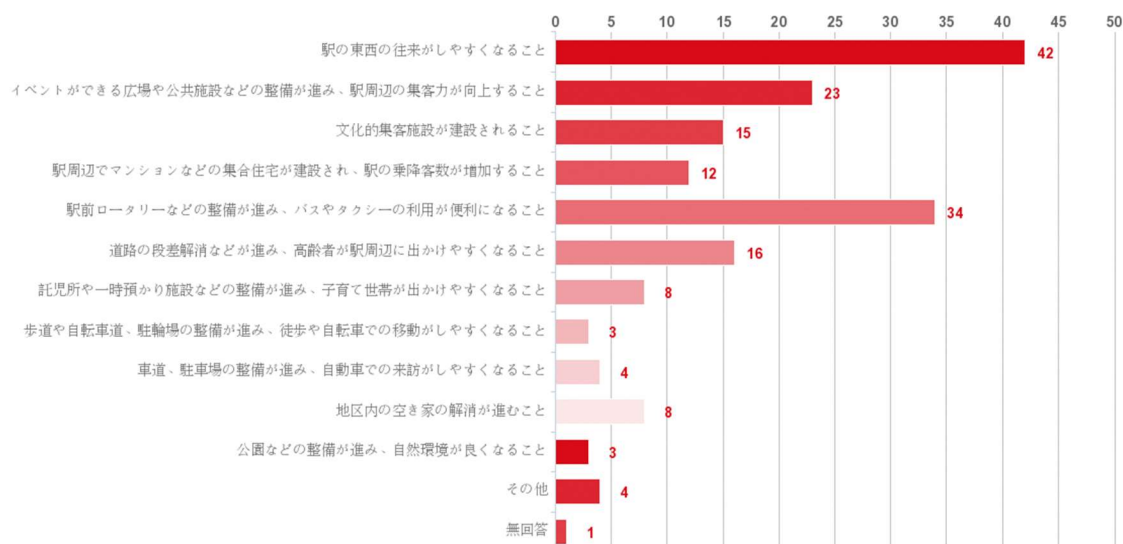
Q19.特に近鉄小倉駅の駅前に限定した質問です。あなたが近鉄小倉駅前の賑わい創出に必要だと考えることは？（3つまで選択可）(回答数: 65)

図 2 (1) 19 のとおり、「駅の東西の往来がしやすくなること」が 42 件で最多であり、次いで「駅前ロータリーなどの整備が進み、バスやタクシーの利用が便利になること」の 34 件、「イベントのできる広場や公共施設の整備が進み、駅周辺の集客力が向上すること」の 23 件、「道路の段差解消などが進み、高齢者が駅周辺に出かけやすくなること」の 16 件、「文化的集客施設が建設されること」の 15 件、「駅周辺でマンションなどの集合住宅が建設され、駅の乗降客数が増加すること」の 16 件と続く状況であることがわかった。

一方、「歩道や自転車道、駐輪場の整備が進み自転車での移動がしやすくなる

こと」「公園などの整備が進み自然環境が良くなること」は最少の 3 件に止まっている。

<図 2 (1) 19>

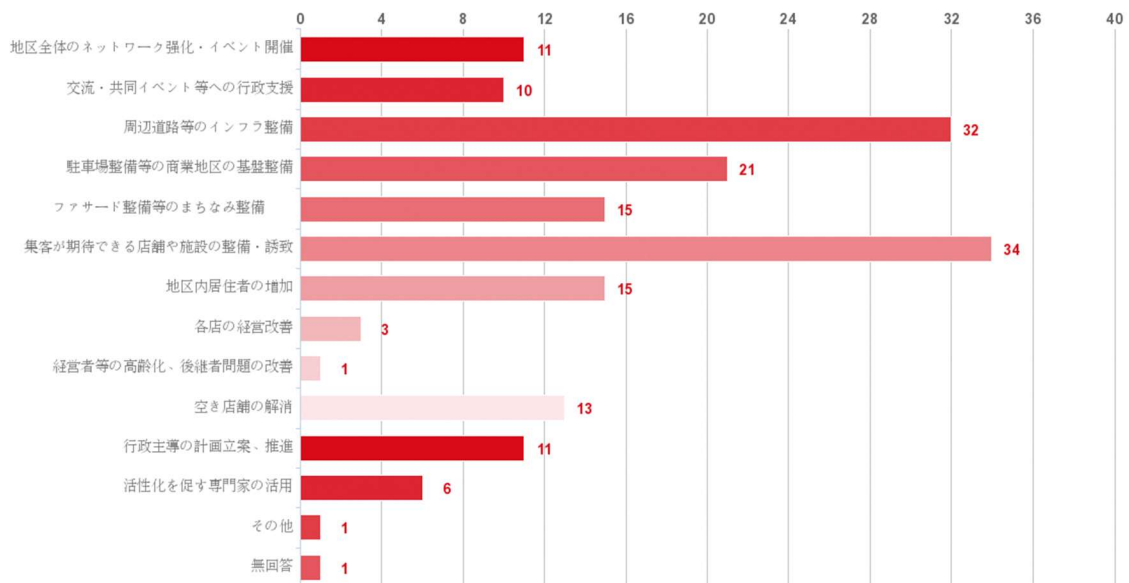


Q20.近鉄小倉駅周辺地区の商業を活性化するには特に何が重要だと思いますか。(3つまで選択可)(回答数：65)

図 2 (1) 20 のとおり、「集客が期待できる店舗や施設の整備・誘致」が 34 件で最多であり、次いで「周辺道路等のインフラ整備」の 32 件、「駐車場整備等の商業地区の基盤整備」の 21 件、「ファサード整備等のまちなみ整備」「地区内居住者の増加」の 15 件、「文化的集客施設が建設されること」の 15 件、「空き店舗の解消」の 13 件と続く状況であることがわかった。

一方、「経営者等の高齢化、後継者問題の改善」は最少の 1 件に止まっている。

<図 2 (1) 20>



Q21.宇治市に期待すること、ご意見などがあればご記入ください。

(回答数：36)

各 商業者が宇治市に期待することについての意見は表 2 (1) 21 のとおりであった。

※次ページ

<表 2 (1) 21>

ビジョンづくり
宇治市、京都府、国が連携した小倉町全体のビジョンづくりとお金の確保をお願い致します。
余りにも IT 化が遅れすぎており、これからの時代の変化に対応出来るか難しいと思う。新しいシステムと考え方の導入が必須と考える。
小倉駅前が大変寂しいです。近鉄を利用して出かける事が少なくなりました。どうか、駅前を魅力的な場所にして下さい。
何をするにも原資が必要、商業発展で居住者や納税額を増額する大胆な整備が必要 民間の力を借りてでも何か仕掛けをする、商業環境の整備を計画的に進めていけば商売人は集まり居住し子育てをする。長期のビジョンが必要だと考えます
コンセプト
小倉駅周辺(西側)にスーパーが無く、高齢化している人達の買い物への負担が大きいです。小倉全体の年齢層があがっている現在、電車を利用しない人はスーパーも無い小倉駅に行く必要が無く、結果閑散とした状況になっているように感じています。また、簡単な事では無いのかもしれませんが、テレビや映画のロケ地としての利用を誘致できれば、他県からの人の往来が増える可能性があるのでは？と考えています。
一人暮らしの人が入りやすいいろんなお店ができるとうれしいです
50 年来、小倉に近鉄急行を停めるといいながら未だに出来ず、スーパー等も増えるどころか減る一方！府下一番の宇治市が過去 8 年でさびれるばかり、これからの活性化に期待する
高齢世代や子育て世代に暮らしやすい街を作ってほしいです。
これからの地域には、「孤独」を少なくすることがとても大切なことだと私は思っています。赤ちゃんからおじいちゃん、おばあちゃんまで が安心、安全に暮らせる街にしたいと思います。 そのために宇治市の方々と、話し合い、相談しながら、未来のために、今出来ることをしていきたいです。
企業誘致、土地開発
当方は小倉地区に住む 20 代です。 私が小倉駅前の開発に要求していることは、宇治市外の人間が住みたいと思えるような街にすることです。今の若者は電車行動がメインですから、駅前に大規模な商業施設が必要です。よって、ユニクロ、無印、GU、マクドナルドといった老若男女が使える店を誘致することが必要不可欠だと考えられます。最近では久御山イオンに入っているテナントが軒並み撤退していることから、車で買い物が時代遅れであることがわかります。それに高齢者は車を運転すると、事故を起こす可能性が高いので、『歩いて楽しい小倉地区』の方が高齢者にとっても良い。食料品以外は買い物するところがない、映画館もない、若者が集まれる場所もない、要するに娯楽のない街です。首都圏や阪神間の駅前には、独特で大規模な商業施設があり、沢山の若者が溢れかえっていますが、宇治市はどこにいても高齢者だけです。これは良いことなのでしょうか？これからの経済を担うのは 20 代から 40 代なので、若い世代が住みたいと思える街にすべきです。近商が放置されて、数年が経ちますが、早いこと行動してもらわないと困ります。中国企業のスピード感を参考にして、さっさと手を打ちましょう。大型商業施設みたいな大規模な商業施設になってくれると、若者だけでなく多くの高齢者も喜びます。宇治市民だけでなく、京都市民や京都府南部の人がいや、近畿の人達が行きたいと思える街にすべきです。現在進行形で人口

が減少している宇治市や宇治市民だけしか考えていない再開発は、衰退が加速するだけです。出来るのであれば、高さ制限の緩和をお願いします。宇治エリアは世界遺産である平等院、宇治上神社があるので、高さ制限をするのは理解できますが、小倉エリアや伊勢田、大久保は高さ制限を緩和できるのでは？六地藏、向日町駅付近ではタワーマンションの計画があることから、近鉄沿線でも同様の動きがあると街が変化すると思います。 ・最後に 滋賀県の大津や草津が積極的に再開発して、人口を増加させてるように宇治市も積極的に行動して、街の魅力を向上させて沢山の方に住んでもらう必要があります。他の街と差別化して、お洒落な街小倉になることを願っています。本当にお願いします。お洒落な街になれば、他府県からのお客様を訪れたいと思うでしょう。私だけでなく、多くの若者が小倉の再開発に期待しています。もし仮に1年経っても動きが見られないのなら、私や私の周りには宇治を捨てて都内で店を開く予定です。
観光ばかりに目を向けるのではなく、京滋バイパス IC の存在を活かせる企業誘致を。
企業誘致等による人口増加。 宇治市の抹茶や歴史等による文化ゾーンと企業活動がしやすいゾーンとに分けて発展できればいいなあとおもいます。
西小倉地区の狭小住宅ゾーンの、大胆な再開発
①企業誘致 久御山町を参考にして、外部から企業を誘致すべきだ。大手企業の工場を誘致できれば、それに伴って定住者の増加、雇用の創出に繋がる。更に固定資産税の税収を増やすことにより市は潤うだろう。 ②オシャレな街 City of Uji 世界の都市(ニューヨーク、パリ、ロンドン、上海)といった街と比較するのは酷だが、これらの都市は電柱を地中化し、文化的建築物と空を綺麗に見ることが可能。予算がないかもしれないが、地中化を率先してやるべき。 ③タワマン 近鉄沿線並びに六地藏にタワマンを作り、首都圏並びに阪神間にあるような高層マンションを作って、近代化を進めるべき。勿論、歴史的な地区は景観を保護すればいいが、歴史的な地区以外ではある程度緩和してみてもどうだろうか。 ④定住者の増加 市政も力を入れてる事だろうが、結果が全くと言っていいほど出ていない。人口を増加する為に必要なことは、利便性と綺麗な街、教育だ。利便性については近鉄京都線、JR 奈良線、京阪宇治線、地下鉄東西線と豊富だが、街が綺麗じゃない。都市開発に力を入れてなかったことが、街を見れば一目瞭然だ。 ⑤若者が集う街 宇治 宇治市が公表している人口動態の統計を見ると、毎月のように若者が転出超過している。高齢者に寄り添うのもいいが、税金を納めてくれるのは若者と子育て世代だ。若者が住みたくなる街は利便性が高く、オシャレな街だ。車を利用する若者が減少傾向にあるのだから、駅前で完結するような街づくりが必要。 ⑥車社会から脱却 高齢者による交通事故が年々増加傾向。厚生労働省によると、数年後の日本は数人に一人が認知症になると言われている。また、足腰の運動になることから電車利用を促すべきだ。 ⑦選択と集中 経済学では基本的な考え方だが、街の選択と集中を行うべきだ。普遍的にやる財力がない宇治市は、鉄道沿線に力を入れた方がいいだろう。 ⑧教育 もっと教育に力を入れるべきだ。具体的には私立中高一貫校の誘致。宇治市の教育レベルが高くなると、優秀な人材を確保しやすくなる。それに伴い子育て世帯も宇治市に住みたいと思える。 ⑨観光 京都府と宇治市は観光客の滞在時間が増やそうとしているが、観光客の滞在時間を増やすだけでなく、消費額も上がることが必要。ここで提案だが、毎週土日にイベントを誘致するのはどうだろうか。ビール祭やスイーツ祭りなど、色んな事に挑戦した方がいい。何もやらないよりマシ。それと宇治の観光エリアの景観規制。京都市やパリ、ウィーン参考にして、徹底的に規制すべきだ。中途半端な景観規制だと統一感のない街になる。そんな街で観光したいと思う人はいない。宇治市を目的に来てもらう為には独自路線が必要。 ⑩最後に 近鉄小倉駅前の開発をどうするのか注目している。駅前にタクシー乗る場を作ると書いてるが、そんなことしても金にはならないし、失

敗するのが見え見え。いつの時代も外と交流してこそ、都市が発展するのだから小倉だけで完結するような都市作りだけはやめていただきたい。宇治の若者や子育て世帯だけでなく、京都市・城陽市・久御山町といった近隣都市、大阪や滋賀といった隣接府県の皆様にも訪問していただけるような街になってほしいと心の底から願っている。私は 40 代の中年で、ショッピングモールで買い物するほど若くはないが、やはり若者が集まっている街は賑わいがあって、街が活気で溢れているから、見ているだけで楽しい。多様な価値観を持つて若者は宝物だ。高齢者を大切するのは当然だが、若者はそれ以上に大切にしなければならない。なぜなら少子高齢化だからこそ、若者の価値が高騰しているからだ。間違った選択をしないように願います。
インフラ等整備
小倉駅前西側をロータリーにしてバリアフリー化して、東西を通路で繋ぎ、安全対策、非少子高齢化対策の町作りと活性化をお願いします。
小倉駅京都銀行前の踏切整備 近鉄の高架化
近鉄線路高架化
近鉄電車の高架、飲食店だけでなく全ての業種に幅広い支援、貸与では審査にとりません。このままでは仕事を失い店舗付住宅なので住居もなくなる。年齢的にも新しく勤めるのは難しい。
賑わいと交通（特に車）混雑解消をセットで考える必要がある。旧 24 号線の 2 車線化かバイパス設置、および、近鉄の高架化を避けて通ることはできないだろう。
近鉄線路の高架実現して下さい。
駅前含め、交通手段の整備 高齢者福祉の充実
小倉駅西側での自動車の送り迎えが危険で、いつ事故が起こるかハラハラしています。商業的には悪影響を及ぼしますが、山際通りとウオジ本通りの一方通行化はできないのでしょうか。
住みやすい町を目指してインフラの改善を計画的に実施してください。
近鉄小倉駅東口は、様々に安全性を損なってしまっていて、特に夜は、老人他弱者が戸惑われてる様子も時々目に入る。再開発まで相当長い時間がかかるということは、既に殆どの住民は知っているので、長期的にストレスは多いと思います。 その中で、東口の最低限の夜間照明や安全な通路導線を示唆してあげることは、老人や妊婦ら弱者には、緊急に必要な応急処置だと思います。 また、駅前のみならず地区全体に、道路、歩道の整備が非常に遅れていますが、さしあたり、標識や車への安全運転への注意喚起を増やしてほしいです。老人、児童やハンディキャップ者を守るために、短期、中長期両面の施策をお願いします。
早くミットミビルを撤去し、整備してください
近鉄小倉駅周辺を迅速に整備してください。 駅前ロータリーや、商用施設の整備を早急におねがいします。
近鉄小倉駅の高齢者や障害者のためのエレベーターあるいはエスカレーター設置を強く希望します。現在の階段だけではあまりにも生活環境として不便であり町づくり以前の問題だと思います。早急な改善をお願いします。
近鉄小倉駅周辺の住宅地、商店が誕生し 50 年以上が経過しています。先日、西口の土地については市が買収に向け調整中との記事が地元紙に取り上げられておりようやく一歩前進と喜んでいます。ただ、地元にとっては東西両側の駅周辺全体の整備も不可欠な問題と捉えており東西の分断を解消するための近鉄高架化なども含めて検討していただきたいです。今後の 50 年、100 年を見据えた構想を市主導のもとお願いいたします。

道路の整備 歩行者が安心して歩けるようにしてほしい 駅前を明るくしてほしい 店舗を増やしてほしい 駅前商店会通りを明るくしてほしい
その他
とにかく小倉駅周辺を早急に何とかしてほしい
住民の意識改革が必要 宇治市は環境が満たされているので将来人口が減り住みにくくなるという実感がない
平等院近辺ばかりがにぎやかになりその他の地域には放ったらかしのような気がします
西友の施設が閉鎖して 集まる場所が無くなって困っている
町の玄関である駅前を何もせず何年もほったらかし。スーパーもなくなり、お年寄りは死ぬ思いで駅をこえて買い物へ。 道路は私道であるという理由で安全対策も何もできないという。 生活している人たちのことを真剣に考えてほしい。

※あくまで回答者個人のご意見です。

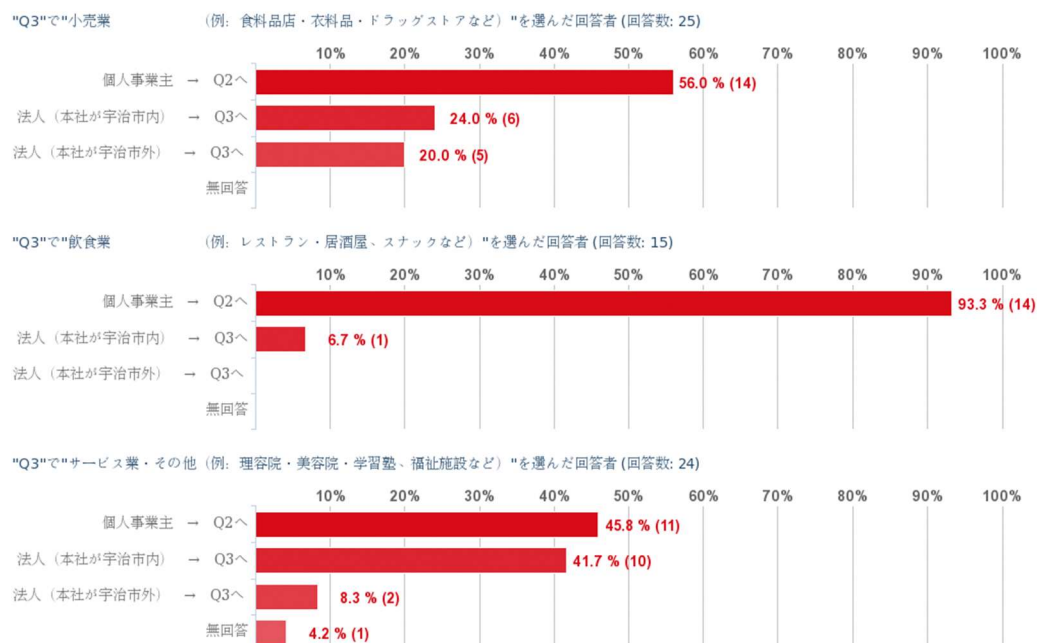
※誤解を与えかねない表現等については削除しています。

(2) 各アンケート設問毎のクロス集計結果

① 「店舗等の経営形態」と「主な業種」のクロス集計結果

図 2 (2) 1 のとおり、「飲食業」における個人事業主の比率が 93.3%と高いことや、「サービス業」における法人（市内・市外）の比率が 50.0%と高いことがわかった。

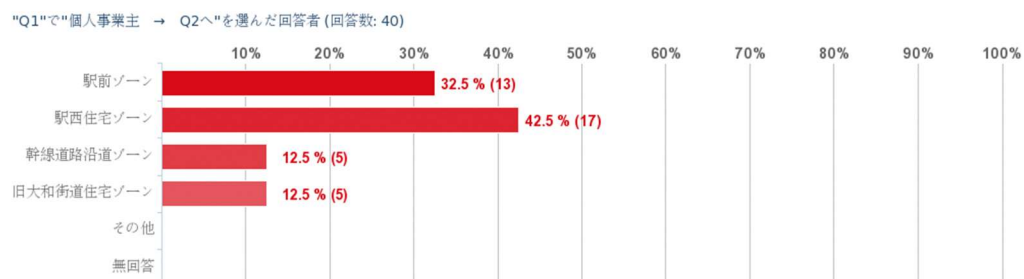
<図 2 (2) 1>



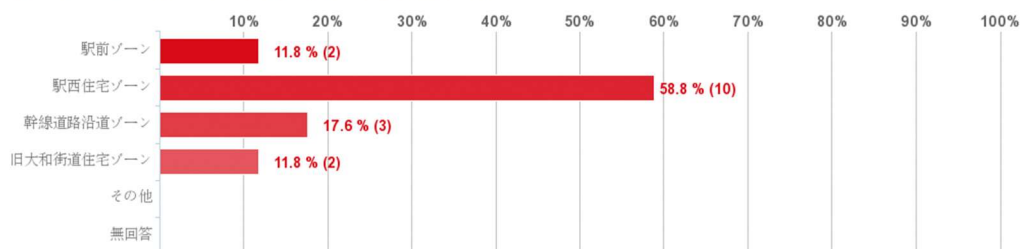
② 「店舗等の経営形態」と「立地ゾーン」のクロス集計結果

図 2 (2) 2 のとおり、「個人事業主」と「法人（宇治市内）」の比率は「駅西住宅ゾーン」で高く、「法人（宇治市外）」の比率は「幹線道路沿道ゾーン」で高いことがわかった。

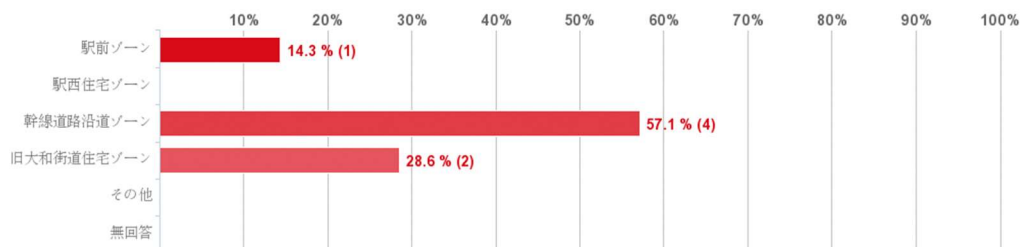
<図 2 (2) 2>



"Q1"で"法人（本社が宇治市内）" → Q3へ"を選んだ回答者（回答数: 17）



"Q1"で"法人（本社が宇治市外）" → Q3へ"を選んだ回答者（回答数: 7）

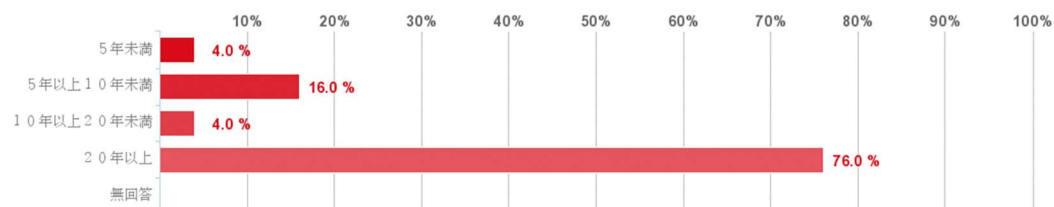


③ 「店舗等の営業年数」と「業種」のクロス集計結果

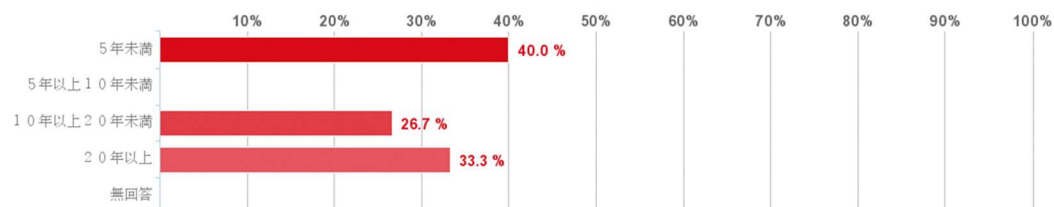
図 2 (2) 3 のとおり、「小売業」及び「サービス業」において営業年数「20 年以上」の比率が高いのに対して、「飲食業」では「5 年未満」の比率が高いことがわかった。

<図 2 (2) 3>

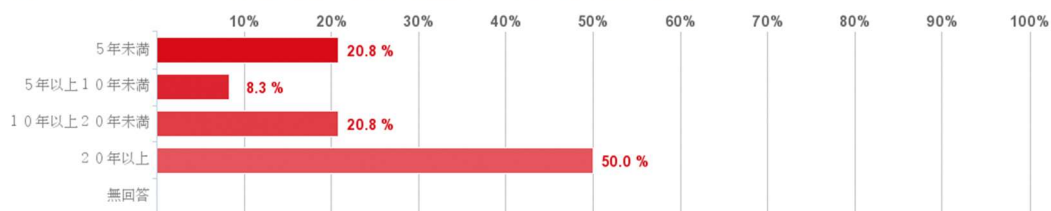
"Q3"で"小売業" (例: 食料品店・衣料品・ドラッグストアなど) "を選んだ回答者 (回答数: 25)



"Q3"で"飲食業" (例: レストラン・居酒屋・スナックなど) "を選んだ回答者 (回答数: 15)



"Q3"で"サービス業・その他（例：理容院・美容院・学習塾・福祉施設など）"を選んだ回答者（回答数：24）

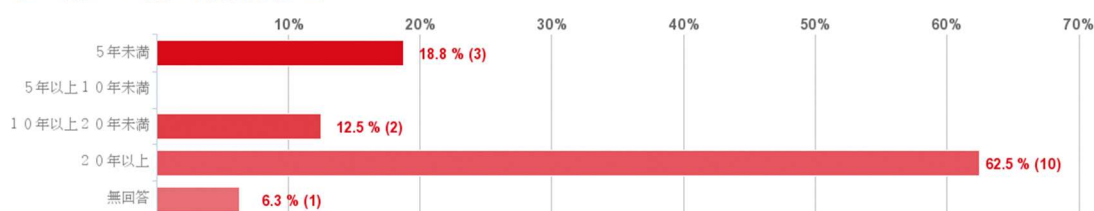


④ 「店舗等の営業年数」と「立地ゾーン」のクロス集計結果

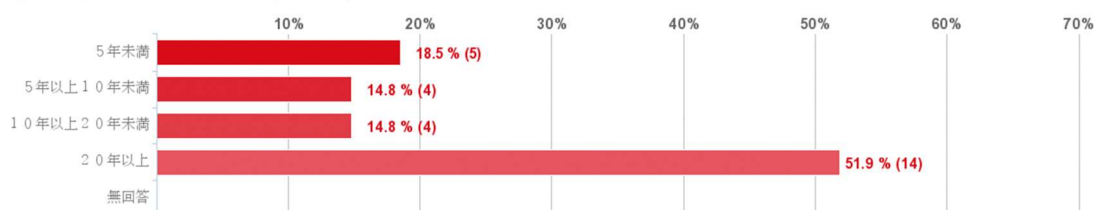
図2(2)4のとおり、いずれの立地ゾーンにおいても営業年数「20年以上」の比率が最も高く、「幹線道路沿道ゾーン」を除く3ゾーンで「5年未満」の比率が次いで高いことがわかった。

<図2(2)4>

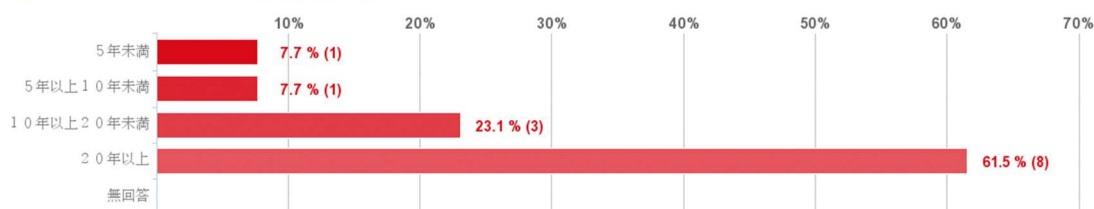
"Q4"で"駅前ゾーン"を選んだ回答者（回答数：16）



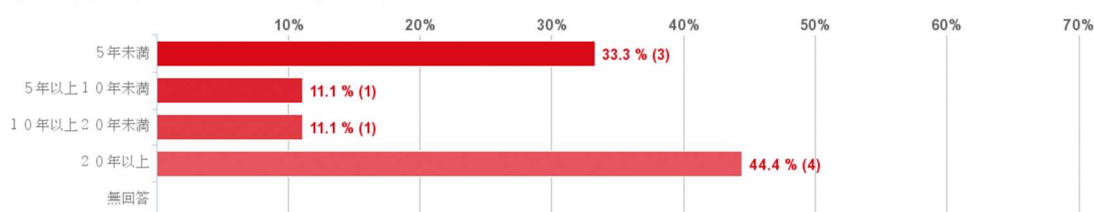
"Q4"で"駅西住宅ゾーン"を選んだ回答者（回答数：27）



"Q4"で"幹線道路沿道ゾーン"を選んだ回答者（回答数：13）



"Q4"で"旧大和街道住宅ゾーン"を選んだ回答者（回答数：9）

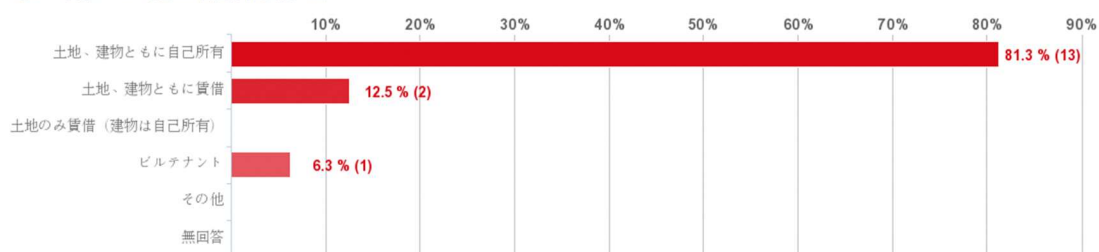


⑤ 「店舗等の保有形態」と「立地ゾーン」のクロス集計結果

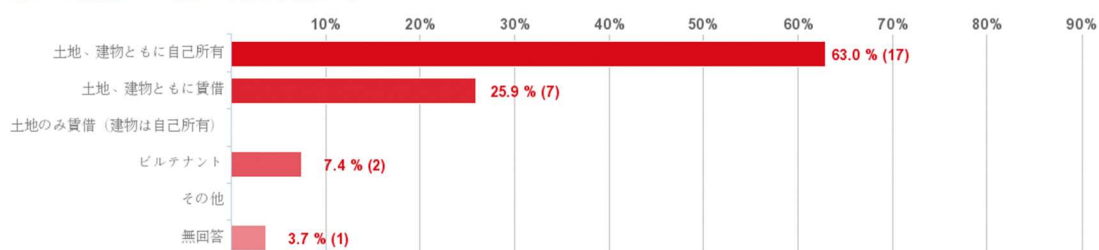
図 2 (2) 5 のとおり、いずれの立地ゾーンにおいても「土地・建物ともに自己所有」の比率が最も高く、「幹線道路沿道ゾーン」を除く 3 ゾーンで「土地・建物ともに賃借」の比率が次いで高いことがわかった。

<図 2 (2) 5>

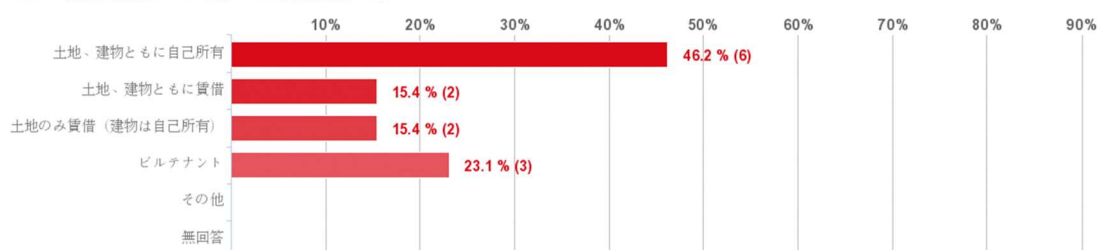
"Q4"で"駅前ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 16)



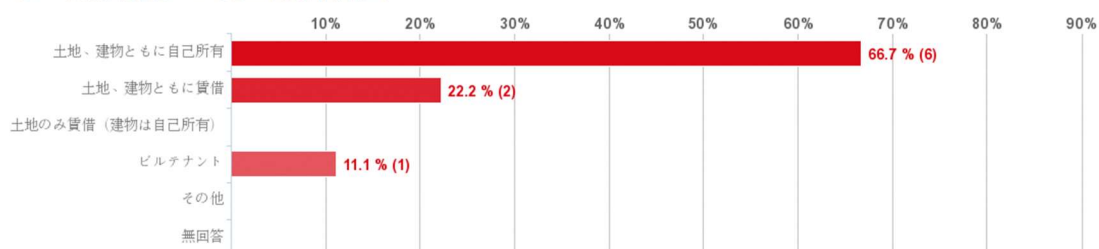
"Q4"で"駅西住宅ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 27)



"Q4"で"幹線道路沿道ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 13)



"Q4"で"旧大和街道住宅ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 9)

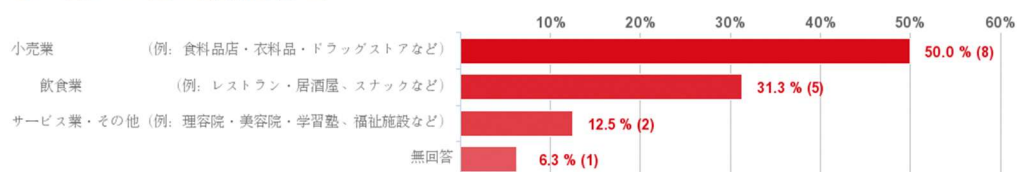


⑥ 「業種」と「立地ゾーン」のクロス集計結果

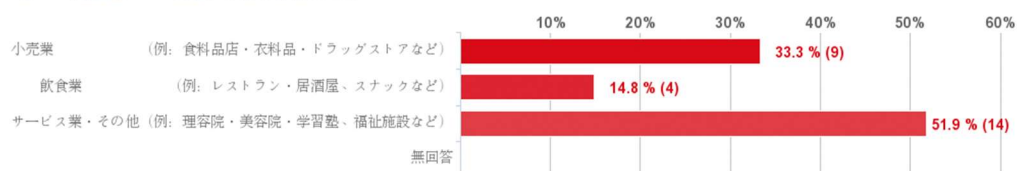
図 2 (2) 6 のとおり、「小売業」の比率は「駅前ゾーン」と「旧大和街道住宅ゾーン」で最も高く、「サービス業」の比率は「駅西住宅ゾーン」と「幹線道路沿道ゾーン」で最も高くなっている。「飲食業」の比率は、「駅西住宅ゾーン」を除く 3 ゾーンで 2 番目に高い比率となっていることがわかった。

<図 2 (2) 6>

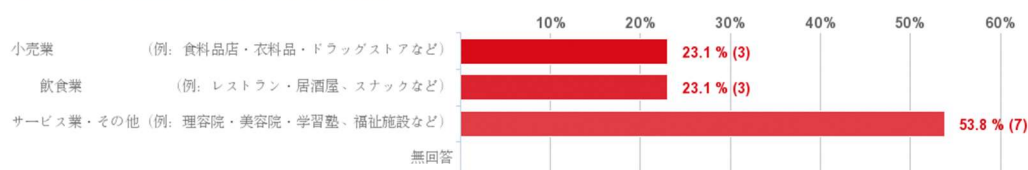
"Q4"で"駅前ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 16)



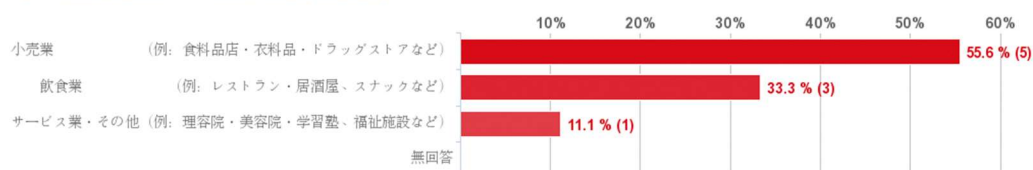
"Q4"で"駅西住宅ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 27)



"Q4"で"幹線道路沿道ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 13)



"Q4"で"旧大和街道住宅ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 9)



⑦ 「業種」と「顧客の主な来店手段」のクロス集計結果

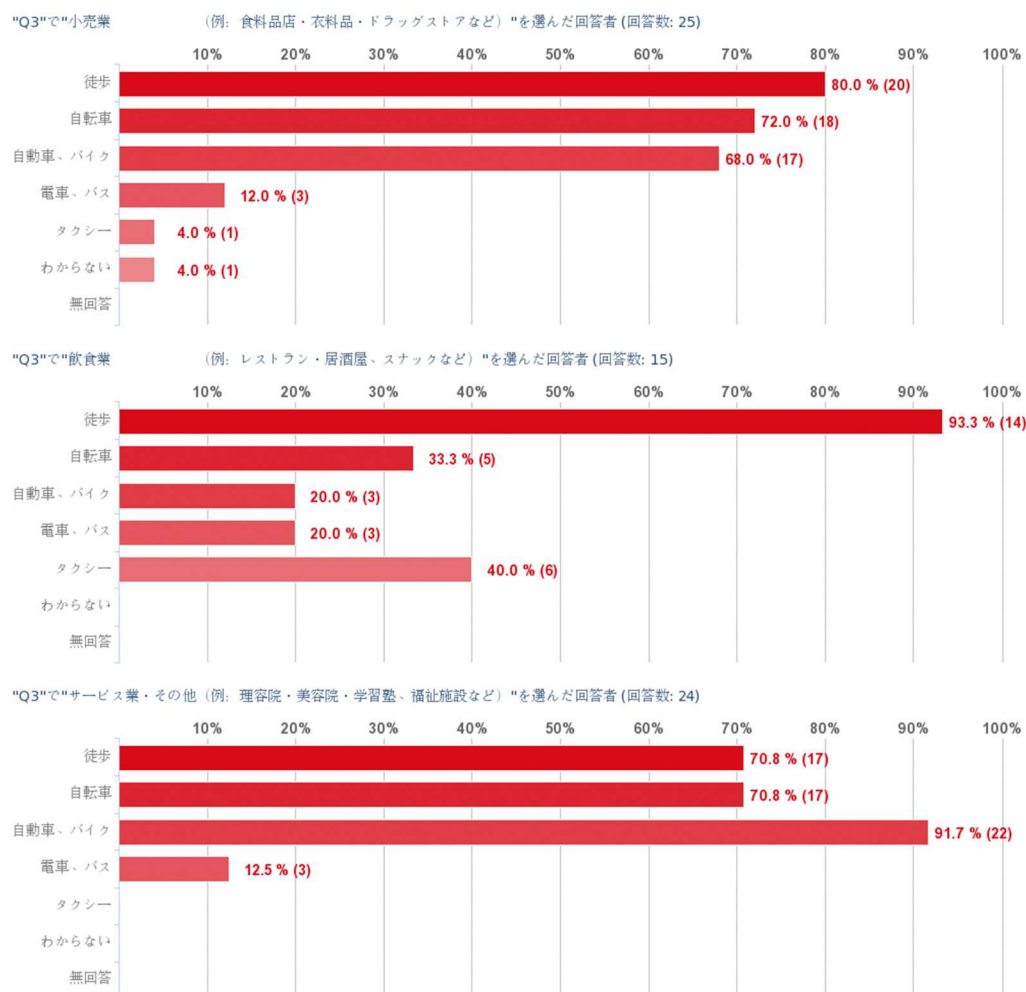
図 2 (2) 7 のとおり、「徒歩」の比率は「小売業」と「飲食業」で最も高く、「自動車・バイク」の比率は「サービス業」で最も高くなっていることがわかった。

「飲食業」の来店手段では、他業種と比べて「自動車・バイク」の比率が低く、「タクシー」の比率が高い特徴があることもわかった。

また、「飲食業」では、「小売業」と「サービス業」で 2 番目に高い「自転車」の比率が「徒歩」「タクシー」に次ぐ 3 番目の手段になっていることも

わかった。

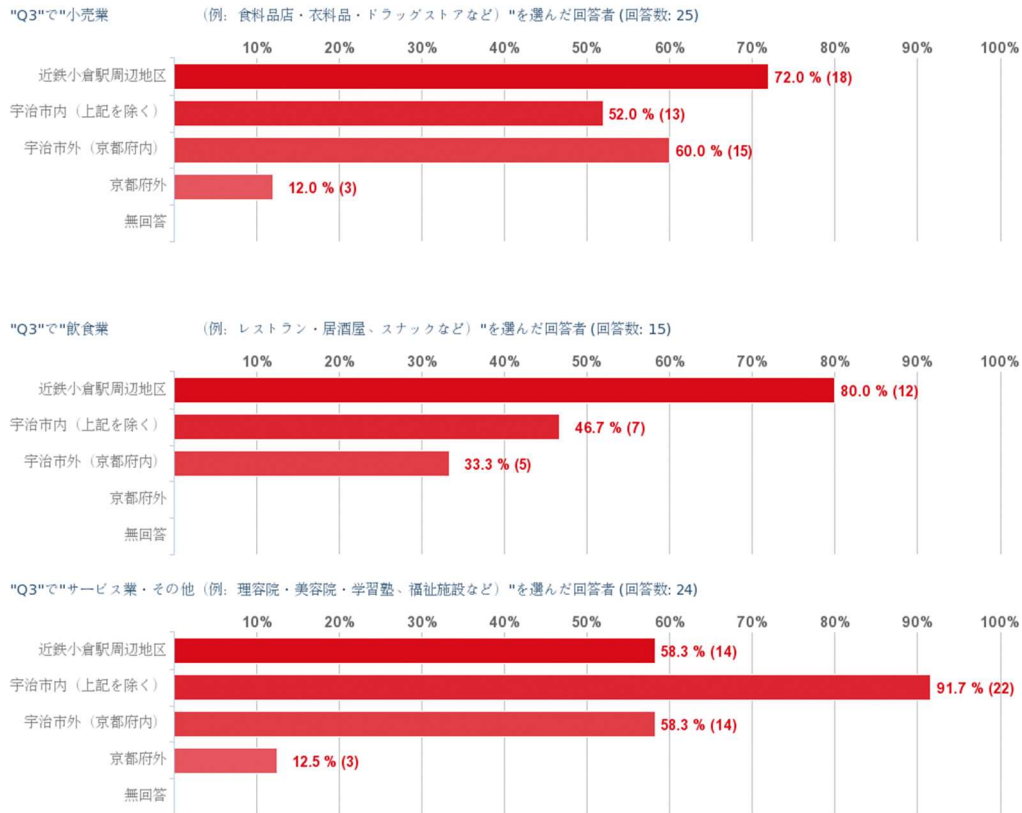
<図 2 (2) 7>



⑧ 「業種」と「集客エリア」のクロス集計結果

図 2 (2) 8 のとおり、「小売業」と「飲食業」で「近鉄小倉駅周辺地区」が最も高いのに対して、「サービス業」では「宇治市内（上記を除く）」の比率が最も高くなっていることがわかった。

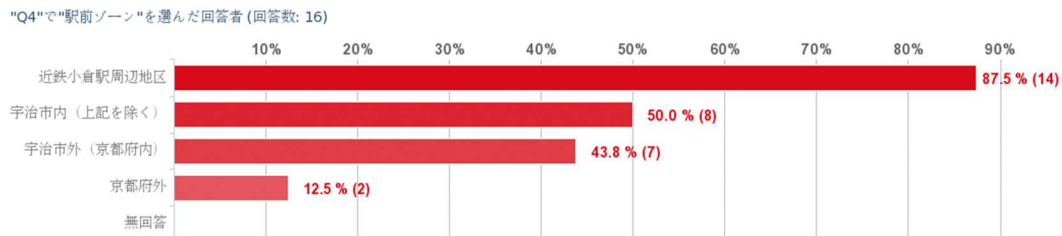
<図 2 (2) 8>



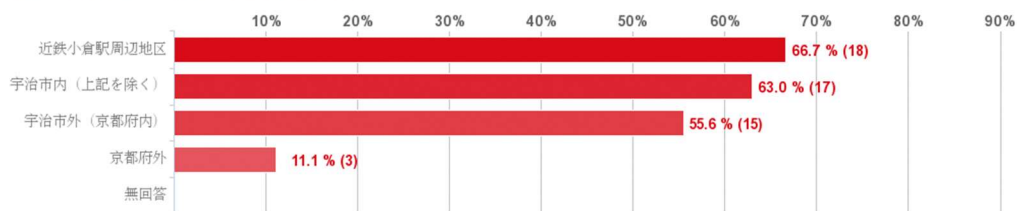
⑨ 「立地ゾーン」と「集客エリア」のクロス集計結果

図 2 (2) 9 のとおり、「駅前ゾーン」と「駅西住宅ゾーン」で「近鉄小倉駅周辺地区」が最も高いのに対して、「幹線道路沿道ゾーン」と「旧大和街道沿道ゾーン」では「宇治市内 (上記を除く)」の比率が最も高くなっていることがわかった。

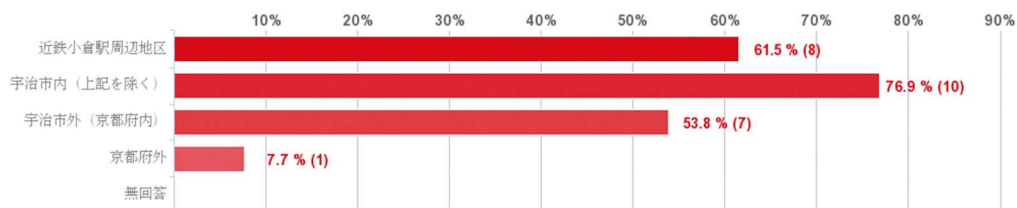
<図 2 (2) 9>



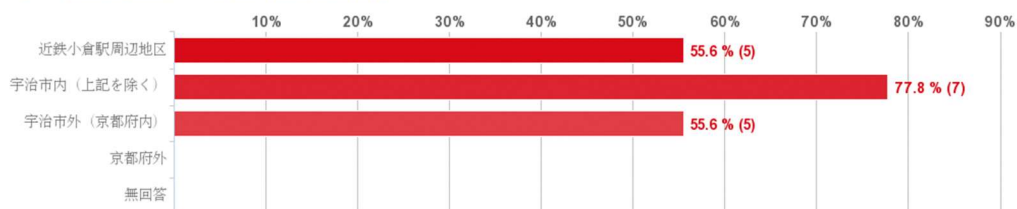
"Q4"で"駅西住宅ゾーン"を選んだ回答者(回答数: 27)



"Q4"で"幹線道路沿道ゾーン"を選んだ回答者(回答数: 13)



"Q4"で"旧大和街道住宅ゾーン"を選んだ回答者(回答数: 9)

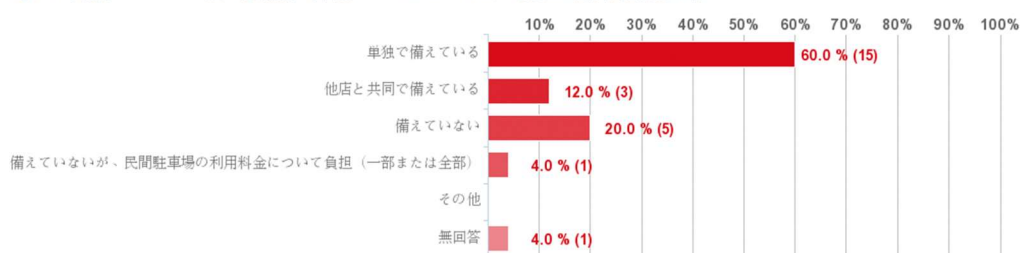


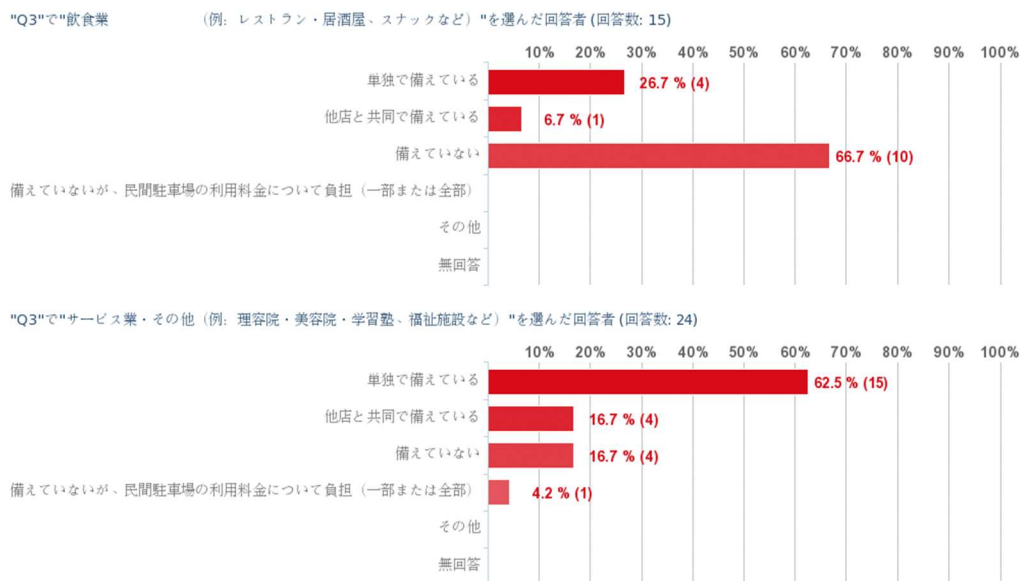
⑩ 「業種」と「駐車場の整備状況」のクロス集計結果

図 2 (2) 10 のとおり、「小売業」と「サービス業」で「単独で備えている」の比率が最も高いのに対して、「飲食業」では「備えていない」の比率が最も高くなっていることがわかった。

<図 2 (2) 10>

"Q3"で"小売業 (例: 食料品店・衣料品・ドラッグストアなど)"を選んだ回答者(回答数: 25)

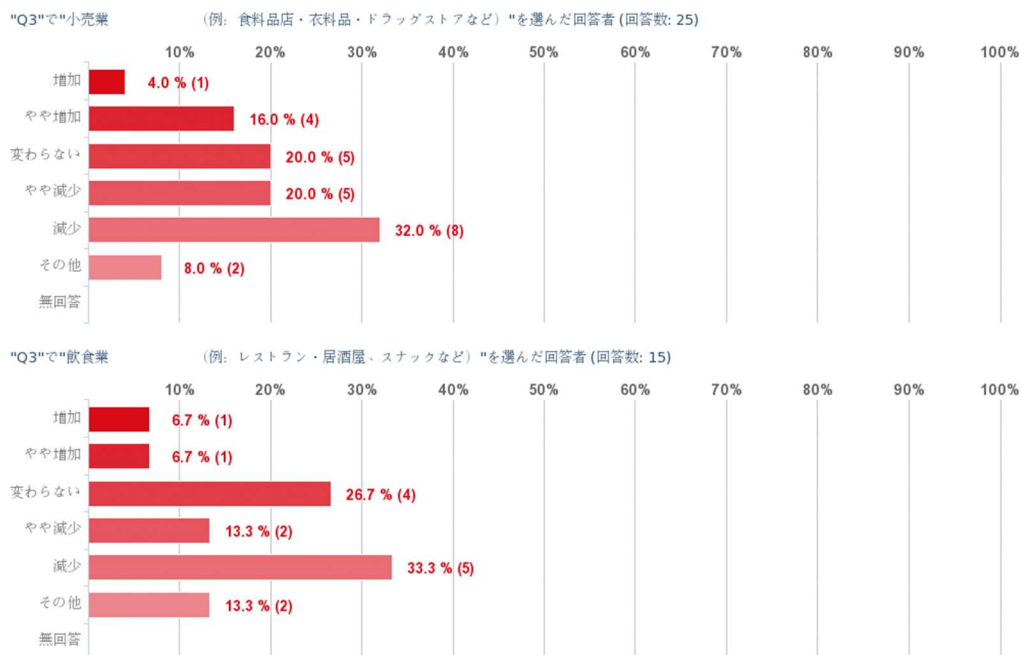




⑪ 「業種」と「業況 (コロナ禍の影響発生前)」のクロス集計結果

図 2 (2) 11-1 及び図 2 (2) 11-2 のとおり、「売上」「客数」とともに、「小売業」と「飲食業」では「減少」の比率が最も高いのに対して、「サービス業」では「やや減少」の比率が最も高くなっていることがわかった。

<図 2 (2) 11-1>

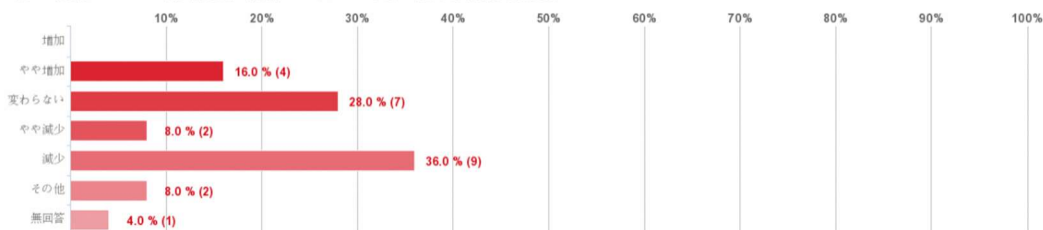


"Q3"で「サービス業・その他（例：理容院・美容院・学習塾・福祉施設など）」を選んだ回答者（回答数：24）



<図 2 (2) 11-2>

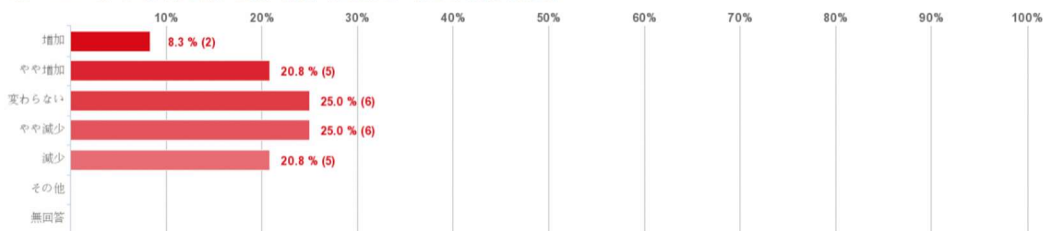
"Q3"で「小売業（例：食料品店・衣料品・ドラッグストアなど）」を選んだ回答者（回答数：25）



"Q3"で「飲食業（例：レストラン・居酒屋・スナックなど）」を選んだ回答者（回答数：15）



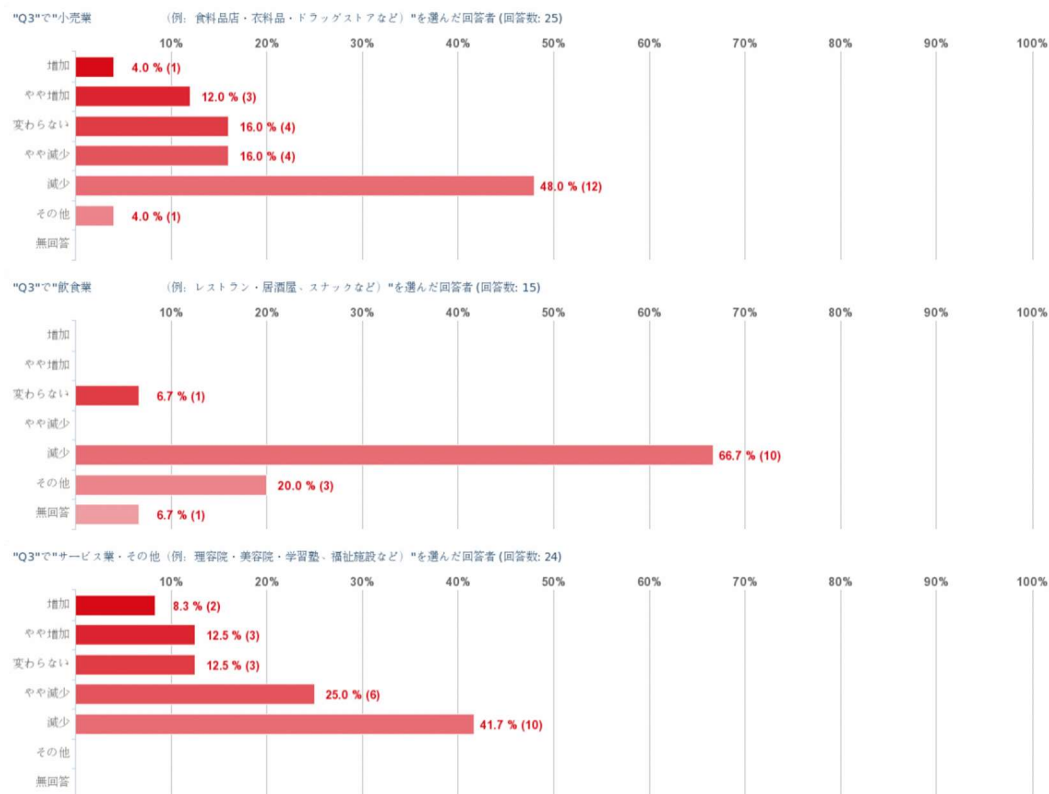
"Q3"で「サービス業・その他（例：理容院・美容院・学習塾・福祉施設など）」を選んだ回答者（回答数：24）



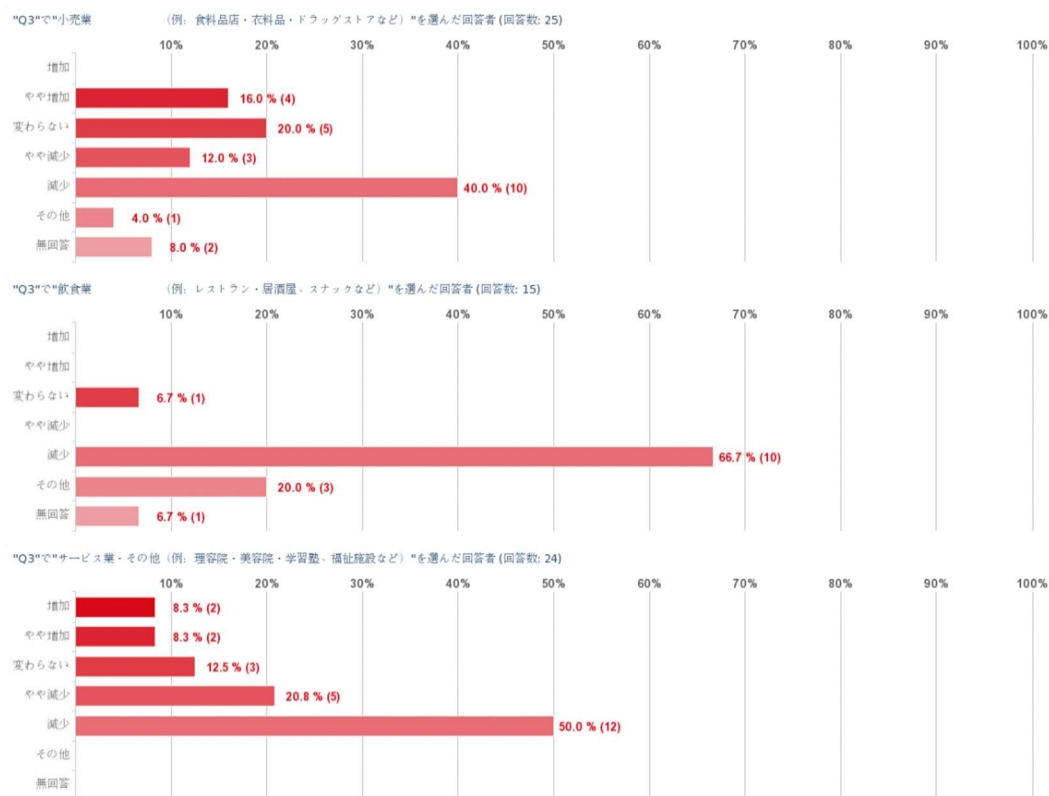
⑫ 「業種」と「業況（コロナ禍の影響発生後）」のクロス集計結果

図 2 (2) 12-1 及び図 2 (2) 12-2 のとおり、⑪のコロナ禍の影響発生前の業況と比べて、全ての業種で「売上」「客数」ともに業況は悪化し、「減少」の比率が最も高くなっている。

<図 2 (2) 12-1>



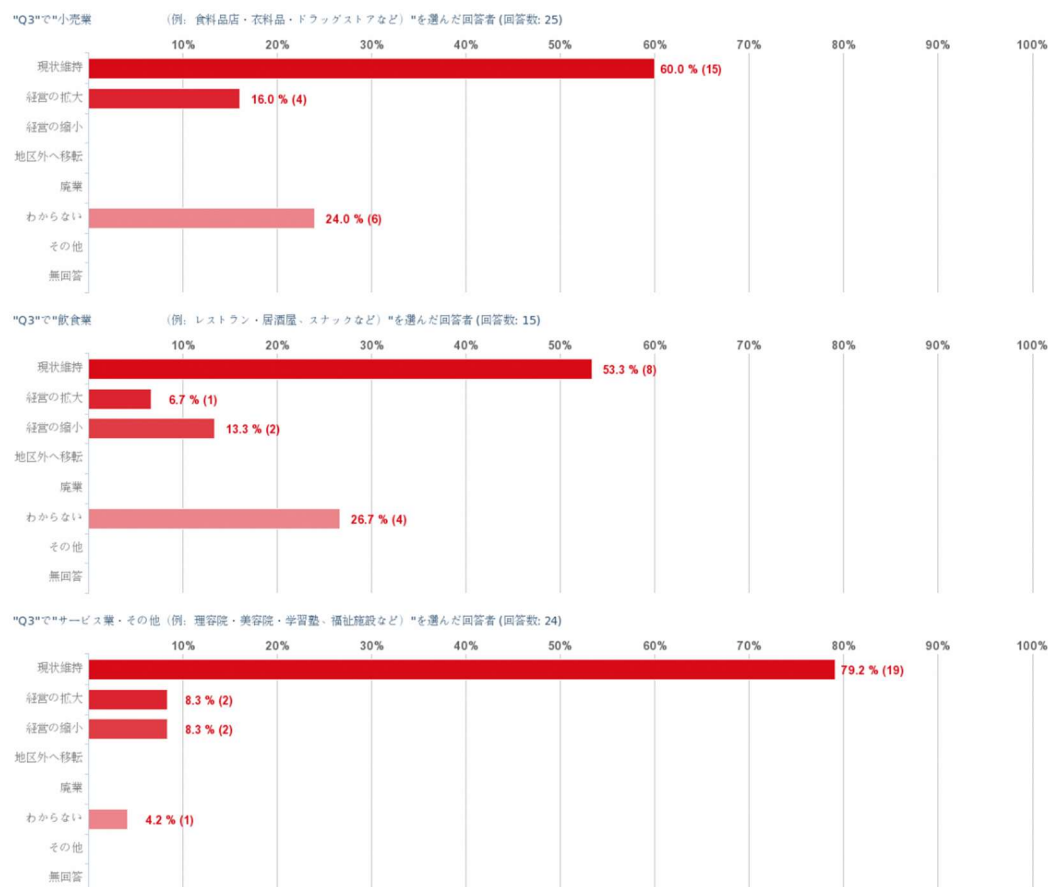
<図 2 (2) 12-2>



⑬ 「業種」と「事業継続の意向」のクロス集計結果

図 2 (2) 13 のとおり、いずれの業種でも「現状維持」の比率が最も高いが、「飲食業」では「経営縮小」と「わからない」の比率が他業種に比べて高い特徴があることがわかった。

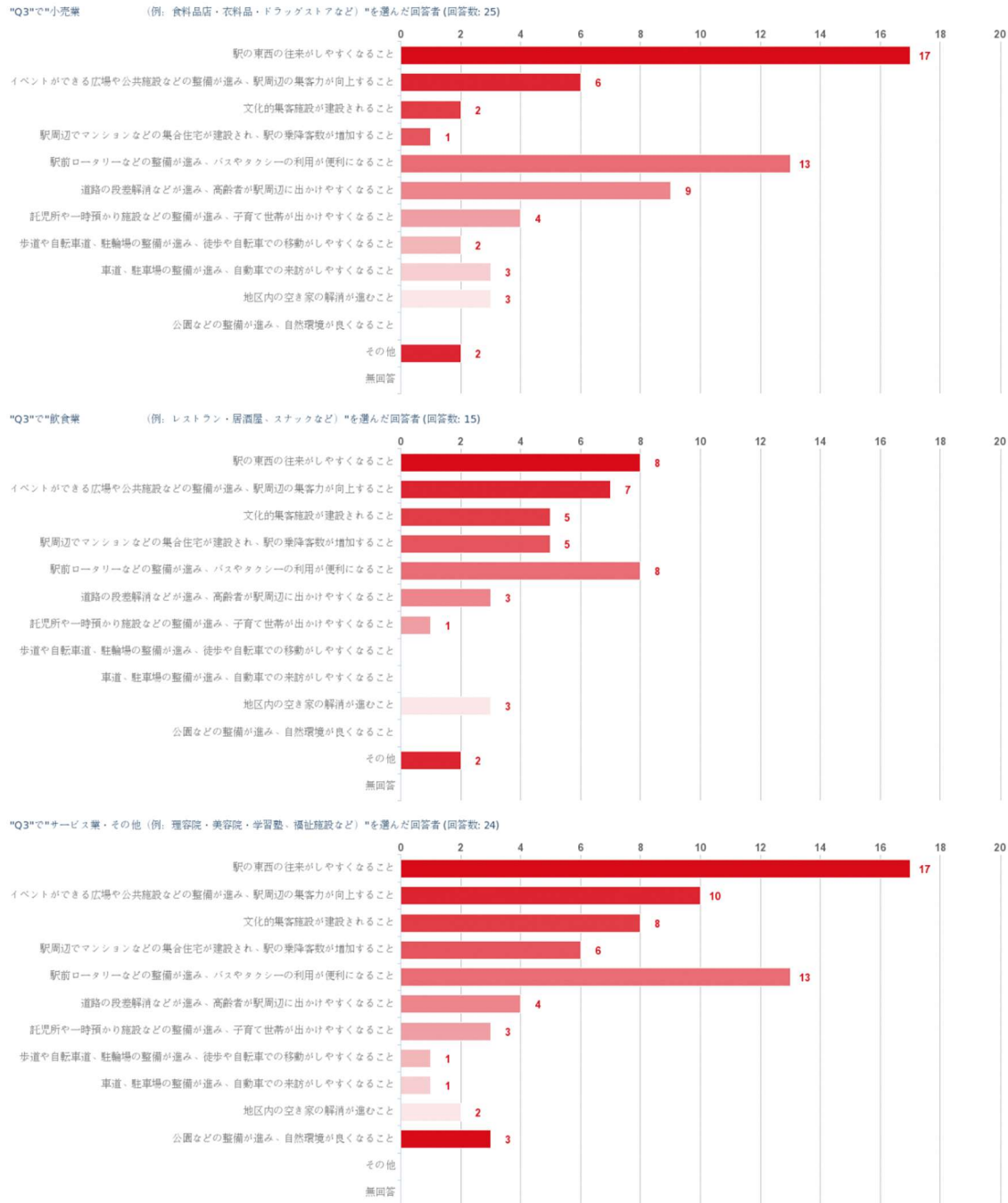
<図 2 (2) 13>



⑭ 「業種」と「賑わい創出に必要と考えること」のクロス集計結果

図 2 (2) 14 のとおり、「小売業」と「サービス業」では「駅の東西の往来がしやすくなること」が単独で最多なのに対して、「飲食業」では「駅前ロータリーなどの整備が進み、バスやタクシーの利用が便利になること」と同数となっていることがわかった。

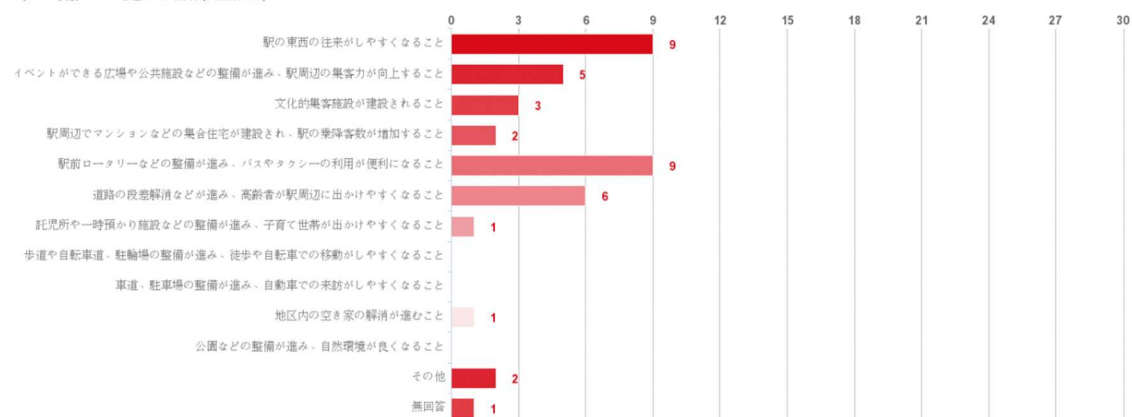
<図 2 (2) 14>



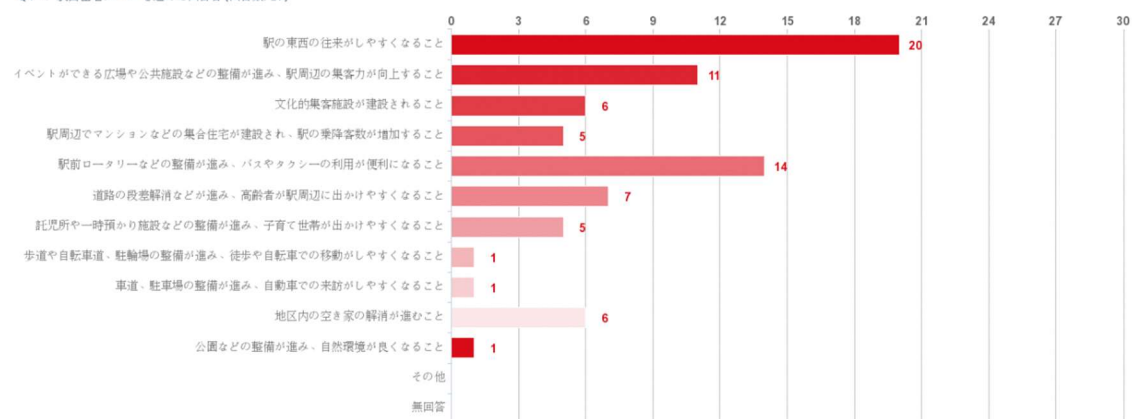
- ⑮ 「立地ゾーン」と「賑わい創出に必要と考えること」のクロス集計結果
 図 2 (2) 15 のとおり、「駅の東西の往来がしやすくなること」については「駅西住宅ゾーン」での回答が最も多いことがわかった。

<図 2 (2) 15>

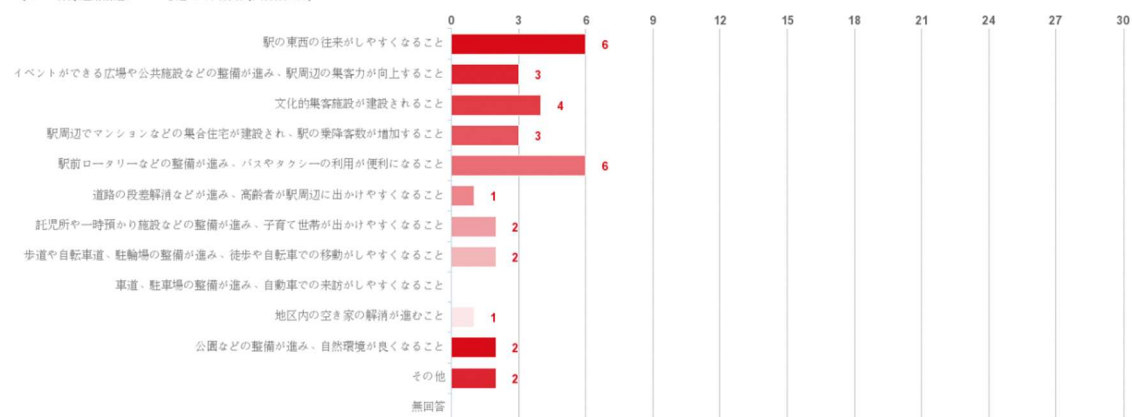
"Q4"で"駅前ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 16)



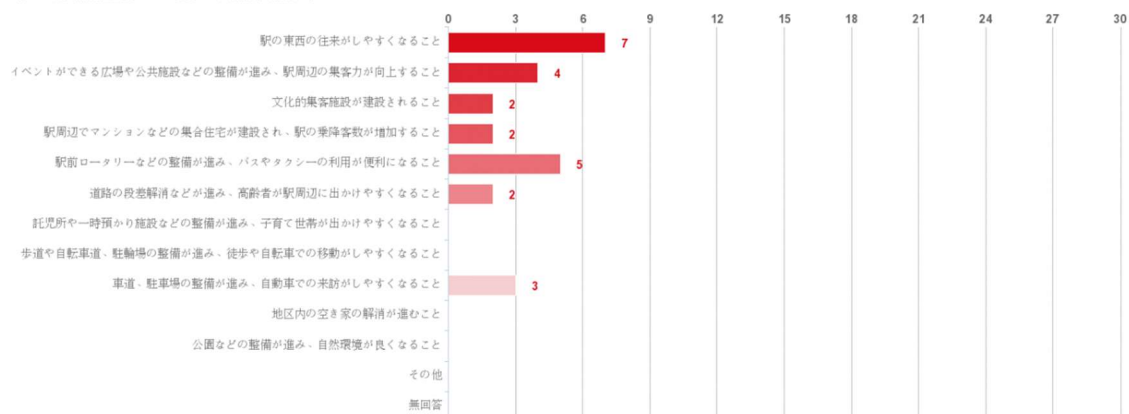
"Q4"で"駅西住宅ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 27)



"Q4"で"幹線道路沿道ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 13)



"Q4"で"旧大和街道住宅ゾーン"を選んだ回答者(回答数: 9)

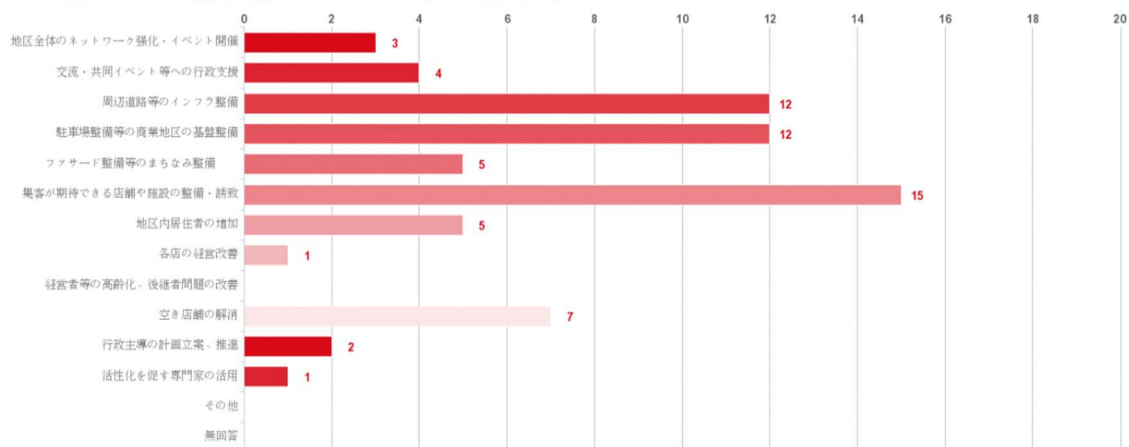


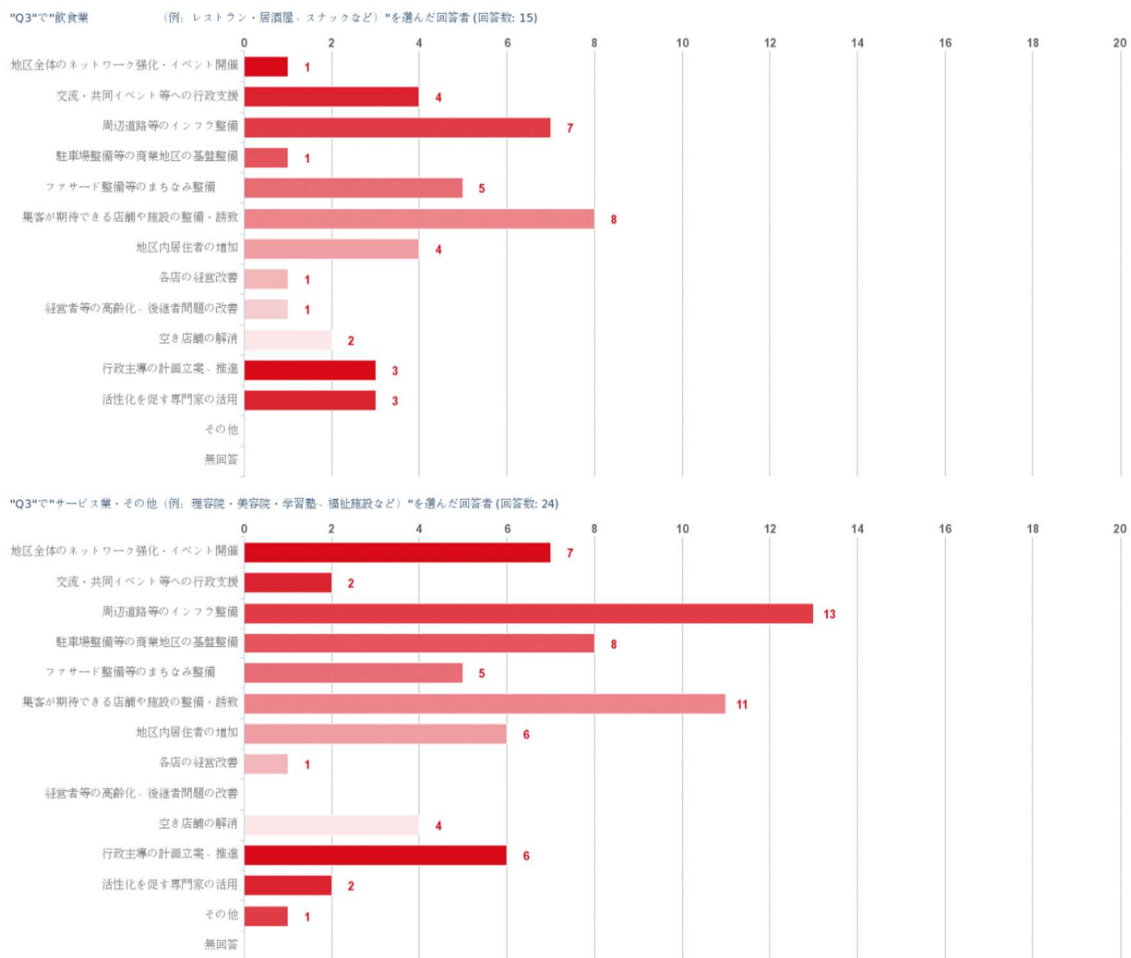
⑯ 「業種」と「商業を活性化するのに重要なこと」のクロス集計結果

図 2 (2) 16 のとおり、「小売業」と「飲食業」においては、「集客が期待できる店舗や施設の整備・誘致」が最多であったのに対して、「サービス業」では、「周辺道路等のインフラ整備」が最多であることがわかった。

<図 2 (2) 16>

"Q3"で"小売業 (例: 食料品店・衣料品・ドラッグストアなど)"を選んだ回答者(回答数: 25)

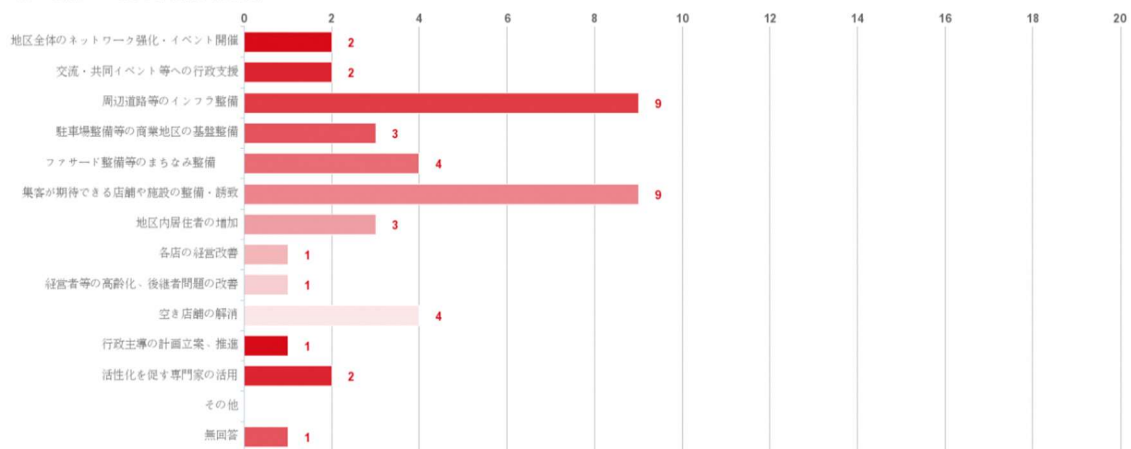




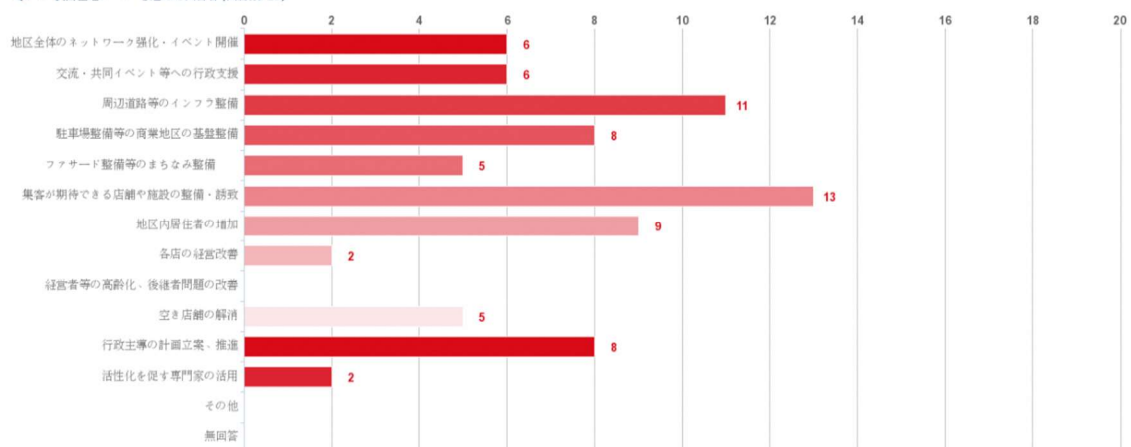
- ⑰ 「立地ゾーン」と「商業を活性化するのに重要なこと」のクロス集計結果
- 図 2 (2) 17 のとおり、全てのゾーンで「集客が期待できる店舗や施設の整備・誘致」や「周辺道路等のインフラ整備」が上位を占めている傾向に変わりはないが、「駅西住宅ゾーン」においては、「地区内居住者の増加」や「行政主導の計画立案、推進」が上位に来る特徴があることがわかった。

<図 2 (2) 17>

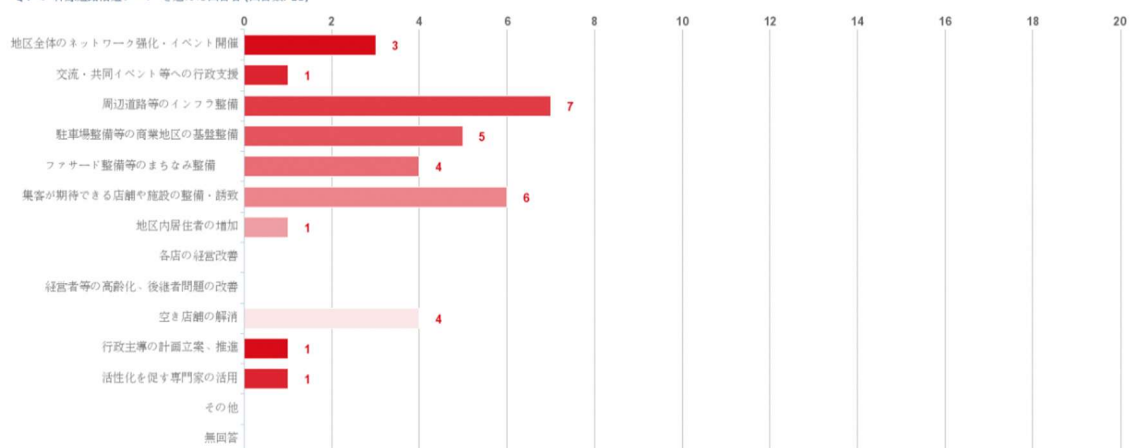
"Q4"で"駅前ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 16)



"Q4"で"駅西住宅ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 27)



"Q4"で"幹線道路沿道ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 13)



"Q4"で"旧大和街道住宅ゾーン"を選んだ回答者 (回答数: 9)

